

別記様式第2号（その1の1）

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン サンギョウイカダイガク 学校法人 産業医科大学								
フリガナ大学の名称	サンギョウイカダイガク ダイガクイン 産業医科大学 大学院 (University of Occupational and Environmental Health, Japan, Graduate School)								
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号								
大学の目的	産業医科大学（以下「本学」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の教育及び研究を行い、労働環境と健康に関する分野におけるこれらの学問の振興と人材の育成に寄与することを目的及び使命とする。								
新設学部等の目的	産業医科大学大学院は、本学設立の目的及び使命に基づき、医学に関する学術研究の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を有する教育研究者を育成し、もって、労働環境と健康に関する分野における、医学の進展と社会福祉の向上に資することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学研究科 [Graduate School of Medical Science] 医学専攻 [medicine (Doctoral course)] 計	4年	40人	—人	160人	博士（医学）	平成25年4月第1年次	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
【基礎となる学部】 医学部医学科 14条特例の実施 昼夜開講の入学定員を分けていない									
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	平成25年4月 医学研究科（博士課程） 生体適応系専攻（廃止） (△10) 環境・産業生態系専攻（廃止） (△10) 障害機構系専攻（廃止） (△10) 生体情報系専攻（廃止） (△10) ※平成25年4月 学生募集停止（平成24年12月届出予定）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学研究科 医学専攻	講義	演習	実験・実習	計	36単位			
		69科目	107科目	41科目	217科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	医学研究科 医学専攻 (博士課程)	25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)
		計	25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)
	既設分		0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)
		計	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)
合計		25人 (32)	27人 (27)	17人 (17)	1人 (1)	70人 (77)	0人 (0)	0人 (0)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		230人 (230)		0人 (0)		230人 (230)		
	技術職員		1,022人 (1,022)		0人 (0)		1,022人 (1,022)		
	図書館専門職員		6人 (6)		0人 (0)		6人 (6)		
	その他の職員		46人 (46)		0人 (0)		46人 (46)		
計		1,304人 (1,304)		0人 (0)		1,304人 (1,304)			
大学全体									

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	13,682㎡	0㎡	0㎡	13,682㎡					
	運 動 場 用 地	43,544㎡	0㎡	0㎡	43,544㎡					
	小 計	57,226㎡	0㎡	0㎡	57,226㎡					
	そ の 他	169,483㎡	0㎡	0㎡	169,483㎡					
合 計	226,709㎡	0㎡	0㎡	226,709㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		48,183㎡ (48,183㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	48,183㎡ (48,183㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	21室	14室	23室	2室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		医学研究科 医学専攻		78室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体 での共用分		
	医学研究科 医学専攻	123,617 [42,685] (120,217 [42,245])	376 [213] (376 [213])	196 [196] (196 [196])	4,702 (4,702)	40,932 (40,932)	71 (71)			
	計	120,217 [42,245] (120,217 [42,245])	376 [213] (376 [213])	196 [196] (196 [196])	4,702 (4,702)	40,932 (40,932)	71 (71)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		2,480㎡	196	206,667						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		2,130㎡	武道館(弓道場、武道場)、屋内温水プール							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費 (運用コストを含 む)を含む。 大学全体	
	教員1人当り研究費等 共同研究費等 図 書 購 入 費 設 備 購 入 費			450千円	450千円	450千円	450千円	—		—
				19,000千円	19,000千円	19,000千円	19,000千円	—		—
		56,990千円	56,990千円	56,990千円	56,990千円	56,990千円	—	—		
		274,000千円	274,000千円	274,000千円	274,000千円	274,000千円	—	—		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
818千円		536千円	536千円	536千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		産業医学助成費補助金、手数料収入、寄付金、 補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入等								
大 学 の 名 称		産業医科大学								
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	取 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地	平成25年より学 生募集停止予定 " " " "
	医学部	年	人	年次 人	人		倍			
	医学科	6	105	—	630	学士 (医学)	0.99	昭和53	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	産業保健学部									
	看護学科	4	70	—	280	学士 (看護学)	0.99	平成8	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	環境マネジメント学科	4	20	—	80	学士 (保健衛生学)	1.00	平成16	"	
	大学院医学研究科									
	生体適応系専攻	4	10	—	40	博士 (医学)	0.30	昭和59	福岡県北九州市八幡 西区医生ヶ丘1番1号	
	環境・産業生態系専攻	4	10	—	40	博士 (医学)	0.27	昭和59	"	
障害機構系専攻	4	10	—	40	博士 (医学)	0.75	昭和59	"		
生体情報系専攻	4	10	—	40	博士 (医学)	0.77	昭和59	"		

附属施設の概要	名称 :	産業医科大学病院
	目的 :	付属病院
	所在地 :	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
	設置年月 :	昭和54年7月
	規模等 :	建物面積 53,809.16㎡
	名称 :	産業医科大学若松病院
	目的 :	付属病院
	所在地 :	福岡県北九州市若松区浜町一丁目17番1号
	設置年月 :	平成23年4月
	規模等 :	建物面積 12,828.01㎡
	名称 :	産業生態科学研究所
	目的 :	産業医学を専門的に研究・教育する付属研究所
	所在地 :	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
	設置年月 :	昭和61年4月
	規模等 :	建物面積 6,453.11㎡
	名称 :	産業医実務研修センター
目的 :	産業医等の教育・修練を行う研修センター	
所在地 :	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号	
設置年月 :	平成3年4月	
規模等 :	建物面積 5,179.80㎡	

## 学校法人産業医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成24年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員		平成25年度	入学 定員	編入学 定員	收容 定員	変更の事由
産業医科大学					産業医科大学				
医学部					医学部				
医学科	105	—	630		医学科	105	—	630	
産業保健学部					産業保健学部				
看護学科	70	—	280		看護学科	70	—	280	
環境マネジメント学科	20	—	80		環境マネジメント学科	20	—	80	
産業医科大学大学院					産業医科大学大学院				
医学研究科					医学研究科				
生体適応系専攻	10	—	40	→	生体適応系専攻	0	—	0	平成25年度より学生募集停止
環境・産業生態系専攻	10	—	40	→	環境・産業生態系専攻	0	—	0	平成25年度より学生募集停止
障害機構系専攻	10	—	40	→	障害機構系専攻	0	—	0	平成25年度より学生募集停止
生体情報系専攻	10	—	40	→	生体情報系専攻	0	—	0	平成25年度より学生募集停止
				→	医学専攻	40	—	160	専攻の設置（届出）

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(大学院医学研究科医学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	産業医学研究基盤コース	1通	2			○			1					
	医学研究概論	1通		2		○			17	10				オムニバス
	産業医学特論	1通		1		○			8	1				オムニバス
	医学英語特別コース	1通		1		○			23	15				オムニバス
	小計（4科目）		2	4	0	—			25	15	0	0	0	
専門領域科目	解剖学特論	1～2通		6		○				1				
	解剖学演習	2～3通		6			○			1				
	解剖学実習	2～4通		6				○		1				
	解剖学論文指導	3～4通		6			○			1				
	組織学特論	1～2通		6		○				1				
	組織学演習	2～3通		6			○			1				
	組織学実習	2～4通		6				○		1	1			オムニバス
	組織学論文指導	3～4通		6			○			1	1			
	法医学特論	1～2通		6		○				1				
	法医学演習	2～3通		6			○			1				
	法医学実習	2～4通		6				○		1				
	法医学論文指導	3～4通		6			○			1				
	法医認定医養成講座	1～4通		2			○			1				
	生化学特論	1～2通		6		○			1					
	生化学演習	2～3通		6			○			1				
	生化学実習	2～4通		6				○		1				
	生化学論文指導	3～4通		6			○			1				
	腫瘍生化学特論	1前		1		○				1				
	がんゲノム情報解析I	1前		1		○				1				
	分子生物学特論	1～2通		6		○				1				
	分子生物学演習	2～3通		6			○			1				
	分子生物学実習	2～4通		6				○		1				
	分子生物学論文指導	3～4通		6			○			1				
	腫瘍分子生物学	2前		1		○				1				
	免疫学特論	1～2通		6		○				1				
	免疫学演習	2～3通		6			○			1				
	免疫学実習	2～4通		6				○		1	1			オムニバス
	免疫学論文指導	3～4通		6			○			1	1			
	腫瘍免疫学	1前		2		○				1				
	病理形態学特論	1～2通		6		○				1				
	病理形態学演習	2～3通		6			○			1				
	病理形態学実習	2～4通		6				○		1	1			オムニバス
	病理形態学論文指導	3～4通		6			○			1	1			
	病理専門医養成講座II	1～4通		2			○			1				
	腫瘍病理学	2前		0.5		○				1				
	神経生理学特論	1～2通		6		○				1				
神経生理学演習	2～3通		6			○			1					
神経生理学実習	2～4通		6				○		1					
神経生理学論文指導	3～4通		6			○			1					
細胞生理学特論	1～2通		6		○				1					
細胞生理学演習	2～3通		6			○			1					
細胞生理学実習	2～4通		6				○		1					
細胞生理学論文指導	3～4通		6			○			1					

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要														
(大学院医学研究科医学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門領域科目	薬理学特論	1～2通		6		○			1					
	薬理学演習	2～3通		6			○		1					
	薬理学実習	2～4通		6				○	1					
	薬理学論文指導	3～4通		6			○		1					
	産業衛生学特論	1～2通		6		○			1					
	産業衛生学演習	2～3通		6			○		1					
	産業衛生学実習	2～4通		6				○	1		1			オムニバス
	産業衛生学論文指導	3～4通		6			○		1		1			
	放射線衛生学特論	1～2通		6			○			1				
	放射線衛生学演習	2～3通		6				○		1				
	放射線衛生学実習	2～4通		6					○	1				
	放射線衛生学論文指導	3～4通		6				○		1				
	労働衛生工学特論	1～2通		6			○			1				
	労働衛生工学演習	2～3通		6				○		1				
	労働衛生工学実習	2～4通		6					○	1				
	労働衛生工学論文指導	3～4通		6				○		1				
	環境衛生化学特論	1後		0.5			○			1				
	環境疫学特論	1～2通		6			○			1				
	環境疫学演習	2～3通		6				○		1				
	環境疫学実習	2～4通		6					○	1				
	環境疫学論文指導	3～4通		6				○		1				
	環境産業疫学特論	1前		0.5			○			1				
	集団健診論	1後		0.25			○			1				
	公衆衛生学特論	1～2通		6			○			1				
	公衆衛生学演習	2～3通		6				○		1				
	公衆衛生学実習	2～4通		6					○	1	1			オムニバス
	公衆衛生学論文指導	3～4通		6				○		1	1			
	計量分析疫学特論	1前		0.75			○			1				
	寄生虫学特論	1～2通		6			○			1				
	寄生虫学演習	2～3通		6				○		1				
	寄生虫学実習	2～4通		6					○	1	1			オムニバス
	寄生虫学論文指導	3～4通		6				○		1	1			
	産業保健管理学特論	1～2通		6			○			1				
	産業保健管理学演習	2～3通		6				○		1				
	産業保健管理学実習	2～4通		6					○	1	1			オムニバス
	産業保健管理学論文指導	3～4通		6				○		1	1			
	神経内科学特論	1～2通		6			○			1				
	神経内科学演習	2～3通		6				○		1				
	神経内科学実習	2～4通		6					○	1	1			オムニバス
	神経内科学論文指導	3～4通		6				○		1				
	神経内科専門医養成講座	1～4通		2				○		1				
	精神医学特論	1～2通		6			○			1				
精神医学演習	2～3通		6				○		1					
精神医学実習	2～4通		6					○	2				オムニバス	
精神医学論文指導	3～4通		6				○		2					
精神科専門医・精神保健指定医養成講座	1～4通		2				○		1					
職業性中毒学特論	1～2通		6			○			1					

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(大学院医学研究科医学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域科目	職業性中毒学演習	2～3通		6				○		1					
	職業性中毒学実習	2～4通		6				○		1					
	職業性中毒学論文指導	3～4通		6				○		1					
	がん患者の職場復帰と産業医の役割	1前		1			○			1					
	病態制御内科学特論	1～2通		6			○			1					
	病態制御内科学演習	2～3通		6				○		1					
	病態制御内科学実習	2～4通		6					○	1	1	1			オムニバス
	病態制御内科学論文指導	3～4通		6				○		1	1				
	リウマチ専門医養成講座	1～4通		2				○		1					
	糖尿病専門医・内分泌専門医養成講座	1～4通		2				○		1					
	病態病理学特論	1～2通		6				○		1					
	病態病理学演習	2～3通		6					○	1					
	病態病理学実習	2～4通		6						1		1			オムニバス
	病態病理学論文指導	3～4通		6					○	1		1			
	病理専門医養成講座 I	1～4通		2					○	1					
	細胞診専門医養成講座	1～4通		2					○	1					
	環境発癌	2前		0.5				○		1					
	TNM分類・病期診断	1前		0.5				○		1					
	微生物学特論	1～2通		6				○		1					
	微生物学演習	2～3通		6					○	1					
	微生物学実習	2～4通		6								2			オムニバス
	微生物学論文指導	3～4通		6					○	1		1			
	消化器内分秘外科学特論	1～2通		6				○		1					
	消化器内分秘外科学演習	2～3通		6					○	1					
	消化器内分秘外科学実習	2～4通		6						1	1				オムニバス
	消化器内分秘外科学論文指導	3～4通		6					○	1	1				
	外科専門医養成講座	1～4通		2					○	1					
	腹部障害特論	1前		0.5				○		1					
	腹部外科腫瘍学	1前		0.5				○		1					
	腹部外科再建外科学	1前		1				○		1					
	がん治療の基本原則 I	1前		1				○		1					
	胸部外科学特論	1～2通		6				○		1					
	胸部外科学演習	2～3通		6					○	1					
	胸部外科学実習	2～4通		6						1	1				オムニバス
	胸部外科学論文指導	3～4通		6					○	1	1				
	呼吸器外科専門医養成講座	1～4通		2					○	1					
	乳腺外科専門医養成講座	1～4通		2					○	1					
	胸部障害再建外科学	1後		1				○		1					
	がんゲノム情報解析 II	2前		1				○		1					
	整形外科特論	1～2通		6				○			1				
	整形外科演習	2～3通		6					○	1					
	整形外科実習	2～4通		6						1	1				オムニバス
整形外科論文指導	3～4通		6					○	1	1					
整形外科専門医養成講座	1～4通		2					○	1						
リハビリテーション医学特論	1～2通		6				○		1						
リハビリテーション医学演習	2～3通		6					○	1						
リハビリテーション医学実習	2～4通		6						1	1				オムニバス	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(大学院医学研究科医学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門領域科目	リハビリテーション医学論文指導	3~4通		6				○			1	1			
	リハビリテーション専門医養成講座	1~4通		2				○			1				
	消化器内科学特論	1~2通		6			○			1					
	消化器内科学演習	2~3通		6				○		1					
	消化器内科学実習	2~4通		6					○	1	1	1			オムニバス
	消化器内科学論文指導	3~4通		6				○		1	1				
	皮膚科学特論	1~2通		6			○			1					
	皮膚科学演習	2~3通		6				○		1					
	皮膚科学実習	2~4通		6					○	1					
	皮膚科学論文指導	3~4通		6				○		1					
	皮膚科専門医養成講座	1~4通		2					○	1					
	泌尿器科学特論	1~2通		6			○				1				
	泌尿器科学演習	2~3通		6				○			1				
	泌尿器科学実習	2~4通		6					○		1				
	泌尿器科学論文指導	3~4通		6				○			1				
	泌尿器科専門医養成講座	1~4通		2					○		1				
	がん診療体制の整備とがん診療における医療連携	2前		1				○			1				
	循環器学特論	1~2通		6			○				1				
	循環器学演習	2~3通		6				○			1				
	循環器学実習	2~4通		6					○		1	1	1		オムニバス
	循環器学論文指導	3~4通		6				○			1	1			
	循環器専門医養成講座	1~4通		2					○		1				
	腎臓学特論	1~2通		6			○				1				
	腎臓学演習	2~3通		6				○			1				
	腎臓学実習	2~4通		6					○		1	1	1		オムニバス
	腎臓学論文指導	3~4通		6				○			1	1			
	腎臓専門医養成講座	1~4通		2					○		1				
	放射線科学特論	1~2通		6			○				1				
	放射線科学演習	2~3通		6				○			1				
	放射線科学実習	2~4通		6					○		1	1	1		オムニバス
	放射線科学論文指導	3~4通		6				○			1	1	1		
	放射線科専門医養成講座	1~4通		2					○		1				
	放射線腫瘍学	1前・2後		3			○				1				
	呼吸器内科学特論	1~2通		6			○				1				
	呼吸器内科学演習	2~3通		6				○			1				
	呼吸器内科学実習	2~4通		6					○		1	1			オムニバス
	呼吸器内科学論文指導	3~4通		6				○			1	1			
	呼吸器内科専門医養成講座	1~4通		2					○		1				
	人間工学特論	1~2通		6			○				1				
	人間工学演習	2~3通		6				○			1				
	人間工学実習	2~4通		6					○		1	1			オムニバス
	人間工学論文指導	3~4通		6				○			1	1			
脳神経外科学特論	1~2通		6			○				1					
脳神経外科学演習	2~3通		6				○			1					
脳神経外科学実習	2~4通		6					○		1	1	1		オムニバス	
脳神経外科学論文指導	3~4通		6				○			1	1				
脳神経外科専門医養成講座	1~4通		2					○		1					



別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(大学院医学研究科医学専攻)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 領 域 科 目	眼科学特論	1～2通		6		○				1					オムニバス	
	眼科学演習	2～3通		6			○			1						
	眼科学実習	2～4通		6				○		1	1					
	眼科学論文指導	3～4通		6				○		1	1					
	眼科専門医養成講座	1～4通		2				○		1						
	耳鼻咽喉科学特論	1～2通		6			○			1					オムニバス	
	耳鼻咽喉科学演習	2～3通		6				○		1						
	耳鼻咽喉科学実習	2～4通		6					○	1	1					
	耳鼻咽喉科学論文指導	3～4通		6					○	1	1					
	耳鼻咽喉科専門医養成講座	1～4通		2					○	1						
	麻酔科学特論	1～2通		6			○				1					
	麻酔科学演習	2～3通		6							1					
	麻酔科学実習	2～4通		6							1					
	麻酔科学論文指導	3～4通		6							1					
	麻酔科専門医養成講座	1～4通		2							1					
	緩和ケアの基本概念と実践	1前		3			○				1					
	産科婦人科学特論	1～2通		6			○			1					オムニバス	
	産科婦人科学演習	2～3通		6					○	1						
	産科婦人科学実習	2～4通		6						1	1	1				
	産科婦人科学論文指導	3～4通		6						1	1					
	臨床腫瘍診断学	1後		0.5			○			1						
	小児科学特論	1～2通		6			○			1					オムニバス	
	小児科学演習	2～3通		6						1						
	小児科学実習	2～4通		6						1	1					
	小児科学論文指導	3～4通		6						1	1					
	小児科専門医養成講座	1～4通		2						1						
	がん治療の基本原則Ⅱ	1前		2			○			1						
各種がんの治療	1前		2			○			1							
がんの生命倫理、法的経済的問題、 心理社会的側面	1前		2			○			1							
小計（213科目）		—	0	1,060	0			—	25	27	17	1	0			
合計（217科目）		—	2	1,064	0			—	25	27	17	1	0			
学位又は称号	博士（医学）		学位又は学科の分野			医学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
本学大学院医学研究科医学専攻に4年以上在学し、所定の授業科目を36単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。						1学年の学期区分			2期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	産業医学研究基盤コース	<p>(概要)</p> <p>大学院生として知っておくべき医学研究の基盤的事項につき、単なる講義のみでなく、見学や討論、演習を積極的に取り入れたカリキュラムとする。具体的な内容は、①大学院の使命、②医学研究法、③トランスレーショナルリサーチ、④医学倫理・研究倫理、⑤研究における利益相反、⑥疫学、⑦統計学基礎、⑧医学英語、⑨医学情報学、⑩英語論文作成手法、⑪論文投稿・発表の倫理、⑫研究用微生物の取り扱い、⑬実験動物の倫理と法規制、⑭遺伝子組み換え、⑮RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識、である。</p>	
	医学研究概論	<p>(概要)</p> <p>大学院の授業を担当するすべての講座等が協力して、本学で行われている医学研究の概要を紹介し、最新の医学研究に関する広範な知識を得るとともに、これから研究を進めるにあたって必要なリサーチマインドの熟成を図る。選択必修として全ての院生が全ての概論科目から選択できることが特徴である。単なる講義のみでなく、討論や演習を積極的に取り入れることにより、より実践的な知識の習得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/15回選択必修)</p> <p>(33. 森本景之/1回) 機能形態と細胞構造                      (34. 佐藤寛晃/1回) 出血性ショックの形態学的変化                      (2. 上野光/1回) 傷害と細胞応答                      (35. 和泉弘人/1回) 遺伝機能と情報高分子                      (3. 上田陽一/1回) 統合の生理機構                      (4. 井上真澄/1回) 適応の生理機構                      (5. 柳原延章/1回) 生体情報と伝達機構                      (36. 吉田安宏/1回) 生体防御と認識機構                      (41. 赤松直樹/1回) 環境要因と中枢神経系                      (14. 田中良哉/1回) 臨床免疫学                      (15. 久岡正典/1回) 病態病理学                      (17. 山口幸二/1回) 臓器障害学概論                      (18. 田中文啓/1回) 臓器障害学概論                      (47. 酒井昭典/1回) 運動器障害学概論                      (48. 和田太/1回) 運動器障害学概論                      (21. 原田大/1回) 消化器障害                      (22. 中村元信/1回) 付属器の幹細胞について                      (50. 藤本直浩/1回) 尿路機能異常                      (24. 尾辻豊/1回) 心電図情報                      (25. 興梠征典/1回) 医用画像から得られる最新生体情報                      (26. 迎寛/1回) 呼吸器感染症                      (28. 西澤茂/1回) 脳循環と髄液循環                      (56. 近藤寛之/1回) 視覚情報の処理機構                      (29. 鈴木秀明/1回) 嚥下障害                      (57. 川崎貴士/1回) 呼吸循環制御                      (31. 蜂須賀徹/1回) 産婦人科画像診断                      (32. 楠原浩一/1回) 小児数量医学</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	産業医学特論	<p>(概要) 本学の特徴である産業医学専門家の教員リソースを活用し、産業衛生学、公衆衛生学、労働衛生工学、環境疫学、産業保健管理学、人間工学、職業性中毒学などの講座が協力して担当する。本学における産業医学研究の概要を紹介し、最新の産業医学研究に関する広範な知識を得ると同時に、いわゆる基礎医学・臨床医学・社会医学の3つの領域の関連を大学院生が有機的に理解して、今後の研究に生かしていくことを目指す。</p> <p>オムニバス方式（全9回）            (6. 川本 俊 弘/1回) 環境と健康            (7. 明 星 敏 彦/1回) 環境粒子と健康            (9. 高 橋 謙 謙/1回) 労働環境と健康            (10. 松 田 晋 哉/1回) 地域保健と環境生態            (11. 金 澤 保 保/1回) 熱帯病と環境生態            (12. 堀 江 正 知/1回) 産業保健政策、労働衛生分野のリスクアセスメント、産業現場における優先的取組み課題、産業医活動の倫理            (42. 新 開 隆 弘/1回) 職場のメンタルヘルス            (27. 藤 木 通 弘/1回) 人間・機械・環境系における生理・心理情報            (8. 上 野 晋 晋/1回) 化学物質曝露がもたらす中枢神経毒性の評価方法の現状と課題</p>	オムニバス方式
	医学英語特別コース	<p>(概要) 大学院の修了者は国際的に通用するグローバルな能力を持つことが期待される。専門的分野の講義とディスカッションを全て英語で行うことにより、実践的な英語能力を身につける。</p> <p>〈オムニバス方式/9回選択必修〉            (33. 森 本 景 之/1回) 細胞死の形態            (34. 佐 藤 寛 晃/1回) 出血性ショックの法医学的診断法            (2. 上 野 光 光/1回) がん細胞の自律的リプログラミング            (35. 和 泉 弘 人/1回) 医学における分子生物学の貢献            (3. 上 田 陽 一/1回) 神経内分泌と生体の恒常性維持機構            (4. 井 上 真 澄/1回) 副腎髄質細胞におけるGABAの役割            (5. 柳 原 延 章/1回) 交感神経系伝達物質の動態に及ぼす臨床治療薬物や植物由来化合物の影響についての英語での講義            (6. 川 本 俊 弘/1回) Encyclopedia of Environmental Health [環境保健百科事典] (Nriagu J. Kawamoto T. et al., Elsevier, 2011)を抄読する。            (37. 大 津 山 彰 彰/1回) 発がんの分子機構と放射線 Molecular Mechanisms of Carcinogenesis and Radiation Damages</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	医学英語特別コース	<p>(7. 明 星 敏 彦/1回) 化学物質のリスクアセスメントとリスクマネジメント</p> <p>(9. 高 橋 謙/1回) 疫学およびグローバル産業保健への応用</p> <p>(10. 松 田 晋 哉/1回) 日本の公衆衛生の課題</p> <p>(36. 吉 田 安 宏/1回) 自然免疫と獲得免疫</p> <p>(39. 長 田 良 雄/1回) 寄生虫感染と免疫</p> <p>(12. 堀 江 正 知/1回) 1)産業保健政策の概要、2)労働衛生分野のリスクアセスメント、3)産業保健活動の倫理</p> <p>(41. 赤 松 直 樹/1回) 神経生理学の進歩</p> <p>(42. 新 開 隆 弘/1回) 臨床薬理学的な研究や職場のメンタルヘルスの動向などについて解説する。</p> <p>(14. 田 中 良 哉/1回) 臨床免疫学の治療の最先端</p> <p>(15. 久 岡 正 典/1回) 腫瘍の分子病理とゲノミクス</p> <p>(17. 山 口 幸 二/1回) 合成リチノイドと抗腫瘍メカニズム</p> <p>(18. 田 中 文 啓/1回) 肺癌研究と臨床における最新の知見</p> <p>(47. 酒 井 昭 典/1回) 骨・骨髄損傷後の修復過程における骨形成シグナル</p> <p>(48. 和 田 太/1回) 高次脳機能に関する夏期特別英語講義</p> <p>(47. 酒 井 昭 典/1回) メカニカルストレスの増減と骨形成シグナルの変化</p> <p>(21. 原 田 大/1回) ウイルソン病の分子機構</p> <p>(22. 中 村 元 信/1回) 皮膚アレルギー疾患</p> <p>(50. 藤 本 直 浩/1回) アンドロゲンと前立腺癌</p> <p>(24. 尾 辻 豊/1回) 虚血性僧帽弁逆流の機序と対策</p> <p>(25. 興 梶 征 典/1回) 水俣病(有機水銀中毒)の脳画像所見と病理</p> <p>(26. 迎 寛/1回) デフェンシンと呼吸器疾患</p> <p>(54. 泉 博 之/1回) ヒューマン・マシン・インターフェイス設計における人間中心設計の考え方</p> <p>(28. 西 澤 茂/1回) くも膜下出血後の脳血管攣縮発生機序</p> <p>(56. 近 藤 寛 之/1回) 全身疾患にみられる眼病変</p> <p>(29. 鈴 木 秀 明/1回) 騒音性難聴の病態</p> <p>(57. 川 崎 貴 士/1回) 侵襲下での呼吸、循環機能の変化とその制御</p> <p>(31. 蜂須賀 徹/1回) 婦人科悪性腫瘍の臨床病理学的解析</p> <p>(32. 楠 原 浩 一/1回) 感染症の宿主遺伝要因</p> <p>(59. 下 野 昌 幸/1回) 繰り返し単純弁別課題を行う時の高次情報処理過程の変化を誘発電位を用いて推察する。</p> <p>(8. 上 野 晋/1回) 化学物質による中枢神経毒性の発症機序</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	解剖学特論	(概要) 肉眼解剖学、組織学、神経解剖学および発生学という解剖学の全般にわたり、講義とセミナーを中心として基礎知識を得るとともに、あらゆる医学の基礎となる解剖学の基本をより深く理解し、発展的に活用する能力の習得を目的とする。	
	解剖学演習	(概要) 抄読会、セミナーにより、解剖学全般にわたる幅広い基礎知識を習得するとともに、大学院生自ら発表・討議を行うことにより、発表および討議能力の基礎を修得する。解剖学の最新の英文原著論文を読み、抄読会で概要を説明し、問題点を批判的に討議する。この演習により、研究課題を見つけ、解決方法を考案していく力を涵養していく。	
	解剖学実習	(概要) 研究課題の概要を定めた後、指導教員の下で具体的な研究の進め方、実験手法、研究倫理に関する討議を行い、研究法を学習する。実際に実験を開始し、得られた結果毎に総括と次の実験方針の討議を行っていく。この過程で科学的なものの見方、考え方を深めていく。また、学会等での成果の発表を行っていくことで情報の発信能力を高めていく。	
	解剖学論文指導	(概要) 研究課題について研究を進め、成果が得られた場合、その結果について、指導教員とともに討議し、問題点を明らかにしていく。その結果、新しい発見にいたった場合、研究成果を原著論文とする。論文執筆を進める過程で、科学論文の構成を理解し、その作成法、留意点を学ぶ。さらに執筆論文の投稿法などについて理解を深める。	
	組織学特論	(概要) 講義やカンファレンスを中心として、組織学に関する基礎知識のみならず、顕微解剖学に関する最先端の情報を習得する。医学の基盤をなす組織学の基本および各種顕微鏡の基礎原理を学び、発展応用する能力の修得を目指す。	
	組織学演習	(概要) 抄読会、セミナーなどを通じて、組織学全般にわたる幅広い知識を実践的に習得する。また、大学院生自ら発表に参画することにより、情報分析・発信に関する能力を身につける。組織学に関連する最新の英語原著論文を読んで、発見の意義や問題点について議論する。これらを通じて研究テーマの設定やその解決方法の選択における能力の育成を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	組織学実習	<p>(概要) 指導教員の下で研究テーマの方向性を決定し、具体的な研究内容や手法などに関する議論を行なう。また、実際に研究を進める中で、結果の討議を通じて結果の解釈の仕方や科学的な考え方を習得する。得られた研究成果については適宜、学会発表を行なうことにより、プレゼンテーション能力の修得を目指す。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(33. 森 本 景 之/45回) 研究テーマに関して、研究手法や研究の展開について指導を行なう。また、結果の科学的・論理的な解釈方法についても指導を行なう。</p> <p>(60. 馬 場 良 子/45回) 研究テーマに関して、各種顕微鏡の操作や試料作製などの研究手法について実践的な指導を行なう。また、実験に関する倫理や、得られたデータの整理やまとめ方についても指導を行なう。</p>	オムニバス方式
	組織学論文指導	<p>(概要) 研究テーマについて得られた成果を論文としてまとめる方法を実践的に学ぶ。実際に論文を執筆する過程において、指導教員との討議・推敲を通じて、論文の基本構成、作成法、またデータの取り扱いや実験に関する倫理等を実践的に習得し、研究成果を論文形式で情報発信する能力の修得を目指す。 (33. 森 本 景 之) 研究テーマに関して、研究手法や研究の展開について指導を行なう。また、結果の科学的・論理的な解釈方法についても指導を行なう。 (60. 馬 場 良 子) 研究補助</p>	
	法医学特論	<p>(概要) 損傷論、法医病理学、法医中毒学、薬毒物分析学、個人識別および医事法制などの法医学全般に関する基礎的な内容について、講義やカンファレンスを通じて知識を得る。そして、死因診断に必要な基礎知識を習得するとともに、死体検案における実践的知識の習得を目指す。</p>	
	法医学演習	<p>(概要) 学会、研究会および症例検討会などへ積極的に参加・発表を行い、死因診断・死体検案に必要な知識を幅広く習得する。そして、疑問点が生じた場合には文献検索や実験的手法などを通じて明らかにしていくとともに、その過程で研究テーマを見出し解決していくことを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	法医学実習	(概要) 研究テーマを遂行するにあたって必要な実験手法・研究倫理などを指導教員とともに考えて研究計画の立案を行ったうえで、実際に研究を行う。得られた研究結果を解析して指導教員と議論し、最終的な結論を導き出す。これらを通じて、研究者としてのリサーチマインドの習得を目指すとともに、法医学における基礎研究の重要性について理解する。	
	法医学論文指導	(概要) 研究から得られた結論に基づき、論文作成を行う。論文の作成に関しては、文章の構成、論文の執筆および表の作成などを指導教員のもとで行い、論文投稿を行う。同時に法医学の実際事例の症例報告についても、積極的に執筆し投稿する。これらを通じて、研究論文や症例報告の作成方法や投稿方法の習得を目指す。	
	法医認定医養成講座	(概要) 司法解剖に立ち会い、実際に執刀を行うことにより死体解剖資格認定を習得する。さらに、損傷論、法医病理学、法医中毒学、薬毒物分析学、個人識別および医事法制などに関する専門的な知識の習得と、死体検案や司法解剖などを法医実務を実践して多数の症例を経験することにより、法医認定医の取得を目指す。	
	生化学特論	(概要) 生化学のうち、とくに学生の興味が高い腫瘍生化学、腫瘍分子生化学を中心に、講義やカンファレンスを軸として、基礎から最新知識を得ることが目的。これらの知識を基にさらに発展応用できる能力の習得が次の目標となる。即ちどんな研究を志すのか？自己で決定できる能力の獲得が最終目標となる。	
	生化学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、医科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、生化学に関する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	生化学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立て方を学ぶ。実際に研究を開始した後は、得られた結果に対してその解釈の方法と次の実験計画立案が出来る能力を養成する。ある程度の成果を得たあとは、学会発表等を目標に専門的プレゼンテーション能力を身につける。論文発表を完遂する。	
	生化学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	腫瘍生化学特論	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。細胞のがん化のメカニズムについて、がんの発生・増殖・進展の各過程で役割を果たす様々な遺伝子や分子を中心に、生化学的、分子生物学的に解説する。	
	がんゲノム情報解析I	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がん専門医に必要な、癌の成り立ちに関する最新知識について解説するとともに、がんゲノム情報解析の基本的概念について解説する。	
	分子生物学特論	(概要) 遺伝子組み換え技術などの分子生物学手法の発展に伴い、生命現象を分子レベルで理解できるようになりつつある。本講義では、遺伝子の本体であるDNAの構造、突然変異と修復、遺伝子の組換えなどについて学び、遺伝子の異常で発生するがん細胞の特性（増殖、血管新生、浸潤・転移）のメカニズムを説明できることを目標とする。	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	分子生物学演習	(概要) 遺伝子異常でおこるがんの分子メカニズムを理解し、説明できる能力を身につける。具体的には、細胞の増殖シグナル、細胞分裂や細胞周期、血管新生、浸潤・転移などに関する最新の分子メカニズムを論文を精読し理解した上で紹介させる。その報告から、がんの新たな診断・治療への発展性と問題点および今後の展望を出席者全員で議論することにより討論する力を養う。	
	分子生物学実習	(概要) 分子生物学手法がどのように医学に貢献しているかを理解し、説明できる能力を身につける。具体的には、遺伝子の組換え操作を行い、正常および異常な蛋白質の強制発現、あるいは蛋白質発現の強制抑制を行う技術を実際の実験を通して習得させる。これらの成果とがんの生物学的特性との関連を考察し、がんを克服する方法を考察させる。その内容を発表することで、プレゼンテーション能力を養わせる。	
	分子生物学論文指導	(概要) 現在のがん診断・治療で何が問題となっているか熟知したうえで、分子レベルで何を明らかにできるかを指導教官と議論し研究テーマを決める。論文作成においては、事実の記載には証拠を、意見の記載には根拠が必要であることを理解させる。証拠と根拠に対しては仮説の立て方、実験方法、結果の解釈と考察の過程を通して学習させる。また、図表の作成方法や参考文献の利用方法などを含め、論文作成の手順を身につけさせる。	
	腫瘍分子生物学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について解説する。さらに、癌と細胞増殖因子、がんウィルスの発現についても解説する。	
	免疫学特論	(概要) 免疫学全般における基礎知識の確認と、日々アップデートされる新情報を、カンファレンス・ミニセミナーを中心に議論していく。これらの議論から、基盤となる免疫反応・システムを総合的に理解する能力を習得し、基礎実験への応用に繋げていくことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	免疫学演習	(概要) カンファレンス・ミニセミナーを中心に議論している免疫学的事象を、大学院生の研究テーマなどと照らし合わせ、大学院生自身でそれらを他の人に伝えるためのプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションの場で、深い議論を交わし、将来の学会などの口頭発表などに繋げられるようにする。	
	免疫学実習	(概要) 講義・演習で議論となったテーマについて、大学院生が問題点を考え、その解決のための実験計画を立て、必要な手技手法を会得する。その過程で、新たな研究テーマの創造ができるようになることが目標である。 (オムニバス方式/全90回)  (11. 金 澤 保/45回) 選択したテーマについて、研究の進め方やサイエンスの視点から、論文をまとめる方向性について指導する。  (36. 吉 田 安 宏/45回) 初代培養細胞、細胞株あるいはマウスを用いた具体的な手技・手法を指導する	オムニバス方式
	免疫学論文指導	(概要) 大学院生の研究テーマから得られた結果をもとに、ストーリー展開を行い、英語論文を作成し、国際誌に投稿する。また国際誌のレヴューアートのやり取りの中で、サイエンスに関する議論を英語でできる技能を習得する。 (11. 金 澤 保) 選択したテーマについて、研究の進め方やサイエンスの視点から、論文をまとめる方向性について指導する。 (36. 吉 田 安 宏) 研究補助	
	腫瘍免疫学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。腫瘍と宿主免疫、すなわちがん患者に内在する免疫システム、自然免疫システム、獲得免疫システムの概要を解説するとともに、がんワクチンや免疫細胞療法について解説する。	
	病理形態学特論	(概要) 疾患特異的組織形態変化について、各臓器での疾患の基礎知識及び実践応用のための経験を蓄積する。すなわち、全ての医学の基盤となっている病理学的知識を学ぶことで、医学の各分野に応用出来る能力を習得することを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	病理形態学演習	(概要) 実際の病理診断症例に関するカンファレンスや、病理形態学的研究を基にしたセミナー、研究会等を通じて病理学全般にわたる基礎知識の実践的習得をめざす。また、大学院生自ら発表を行い議論に参加することで、発表や質疑応答のスキルを習得させることや、論文を渉猟して、自分の研究テーマを見つけ、問題を解決する能力を習得させることを目指す。	
	病理形態学実習	(概要) 自分の研究テーマが決定したのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や研究方法、研究倫理に関して検討、議論し、実際の研究を行っていく。 (オムニバス方式/全90回)  (15. 久岡正典/45回) テーマに沿った研究方法、研究倫理に関して検討、議論し、実際の研究を行い、データのまとめ方などについて指導を行う。  (61. 山田壮亮/45回) テーマに沿った研究方法、研究倫理に関して検討、議論し、実際の研究を行い、生理、病理学的役割の解明	オムニバス方式
	病理形態学論文指導	(概要) 研究結果が得られたら、指導教員の下で、実験結果について討論し、問題点を明らかにし、論文執筆の際には指導してもらいながら、論文を執筆する。その際指導教員と討論し、必要があればデータを追加するための追加実験を行ったたり、論文修正を通じて論文が受理されるまでの過程を理解する。 (15. 久岡正典) テーマに沿った研究方法、研究倫理に関して検討、議論し、実際の研究を行い、データのまとめ方などについて指導を行う。 (61. 山田壮亮) 研究補助	
	病理専門医養成講座 II	(概要) 病理専門医には、広い医学的知識に裏打ちされた病理組織の理解が求められる。すなわち、全身諸臓器に起こる疾患の特徴的組織像と、類似組織の相違を区別し、正しい診断に至ることの出来る能力が必要である。実際の診断を通じて実践していくことが求められる。	
	腫瘍病理学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。腫瘍細胞形態等の病理診断の基本を解説するとともに、がん病理診断の実例を題材として、悪性度や浸潤、転移がどのように診断されるのか、その情報が臨床の現場でどのように活かされるのか解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	神経生理学特論	(概要) 神経生理学・神経内分泌の側面から生体の恒常性維持機構の解明を目指す。さらに、職場での適応・不適応に関する生体反応、特にストレス反応についての脳内機序の解明を目指す。そのための手法として、生理活性物質および神経ペプチドの生理作用の検討、電気生理学的手法を用いたシナプスレベルでの検討、遺伝子改変動物を用いた研究等を学ぶ。研究目的を達するために必要となる研究デザインや手技の応用、結果の分析に関しての能力も養う。	
	神経生理学演習	(概要) 研究テーマに関わる最新の情報を収集するため、自ら最新の英語文献を検索し内容吟味を行い、その情報をもとに研究に応用していく。収集した情報は、抄読会、カンファレンス等で発表を行い、議論を行うことで、さらに深いものとする。また、研究会や学会での発表を積極的に行っていく。これらの準備から実践を通じプレゼンテーションおよびディスカッション能力を修得する。	
	神経生理学実習	(概要) 研究テーマの概要が決まれば、その目的や探求すべき課題に向かって、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行いながら実践していく。実験手技（主に電気生理学的手法と分子生物学的手法を組み合わせた手技）に関しては、指導を受けた後には独自に実行できるレベルまで修得できるようにする。実験により得られたデータは統計的手法により分析を行い、科学的な意義を検証する。	
	神経生理学論文指導	(概要) 論文作成に対する基本的な過程を学ぶ。具体的には、図表の作成方法、実験方法の記載、結果の検討および記述、既存の研究結果との比較検討、論文で用いる英語表現などである。これらの過程を遂行するにあたり、指導教員との綿密な打ち合わせを繰り返しながら精度の高い論文を仕上げていく。これらの経験は、可能な限り多く繰り返すことにより定着させる。	
	細胞生理学特論	(概要) シグナル伝達素子の膜輸送や発現調節など細胞生理学全般にわたり、講義及び実験検討会を中心として基礎知識を得ると同時に、研究に応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる生命現象の基礎となっている細胞生理学の基本を学び、それらを発展応用する能力の習得をする事が目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	細胞生理学演習	(概要) 抄読会、研究討論会、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、細胞生理学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーション及びディスカッション能力の基礎を身につける。抄読会では、細胞生理学に関連する最新の英文原著論文を読んで紹介するとともに、問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	細胞生理学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で種々の実験手技・手法を学び、具体的な研究の方向性及び研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方及び具体的に研究の進め方を学ぶ。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	
	細胞生理学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	薬理学特論	(概要) 薬物動態特論、薬物受容体特論、生物活性物質特論、薬物活性理論など薬理学分野の全般にわたり、講義やセミナーを中心として、基礎知識を習得する。すなわち、臨床での薬物治療における薬の科学的素養を身につけるための基本を学び、薬物や生理活性物質が生体のどの部位にどのように作用して生体機能を修飾するかを学習することを旨とする。	
	薬理学演習	(概要) 論文の抄読会、研究セミナー、薬理学会などの多くの機会を通して、薬理学全般にわたる科学的基礎知識を習得するとともに演習する。大学院生は、これらの機会を通じて自ら発表する能力を磨き、議論に参加し討論する論理的思考力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	薬理学実習	(概要) 研究テーマに従って、指導教員の下で実際の研究の方向性や実験手法を十分に議論し、研究概要の計画を立てる。その計画に従って、指導教員の技術指導を受けて、研究を進めて行く。得られた研究成果を科学的に客観的に評価し、議論する。その過程を通して科学的リサーチマインドを養い、研究の困難な壁に遭遇しても、いかにしてその壁を乗り越えて行くかを訓練する。また、得られた成果を学会発表して、優れた研究発表能力を養う。	
	薬理学論文指導	(概要) 研究結果の統計処理を行い、その科学的有意性の下に研究成果を整理しまとめ、論文作成を行う。論文執筆においては指導教員により、論文作成の指導を受け、大学院生自らが論文を書く能力が身につくように議論と修正を繰り返し、それらの過程を通して論文作成能力を養う。さらに論文投稿や学会発表における倫理や研究者としてのマナーを実践的に修得する。	
	産業衛生学特論	(概要) 産業衛生学特論は狭義の産業衛生学の範囲にとどまらず、産業中毒、環境保健、環境中毒、食品衛生、母子保健等、衛生学すべての範囲を対象に特論講義を行う。教科書はEncyclopedia of Environmental Health (Nriagu J. Kawamoto T. et al, Elsevier, 2011) を使用し、産業衛生学に関する幅広く、かつ深い内容を習得する。	
	産業衛生学演習	(概要) 産業現場における調査、エコチル調査さらには大規模就業調査のデータや実験室での分析データを統計学的に解析して、その結果を現場や一般社会に還元する演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	産業衛生学実習	<p>(概要) 産業衛生学実習は、産業現場と実験室の有機的結合を目的としている。すなわち、産業現場での実態調査・環境測定・生体試料採取さらには一般人を対象とした職業調査や生体試料採取をする一方で、実験室では生体試料中の化学物質及び代謝物のHPLC・GC-MS・LC-MS等を用いた同定、定量、化学物質に対する特異的抗体の測定、酵素活性測定、PCR法、DNA-sequenceを用いた遺伝子多型の同定、Expression-array (cDNA array)やRT-PCR法を用いたmRNA発現量測定、Proteomics技術を用いた化学物質－タンパク質付加体の解析等を行い、労働と健康について包括的に理解する。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(6. 川本俊弘/45回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。</p> <p>(62. 辻真弓/45回) 選択したテーマから得られた研究結果に対して、結果の妥当性を検討し、疫学的手法を用いて客観的に評価を行う方法を指導する。</p>	オムニバス方式
	産業衛生学論文指導	<p>(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員の下統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。</p> <p>(6. 川本俊弘) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。</p> <p>(62. 辻真弓) 研究補助</p>	
	放射線衛生学特論	<p>(概要) 放射線衛生学分野全般の知識を習得するにあたり基礎的分野となる、放射線物理学、放射線生物学、放射線化学、放射線測定、放射線管理に関する基本的な知識の習得と、産業医学分野と関連する応用分野として放射線生物影響、放射線障害に関する知識の習得を目標とした講義を行う。</p>	
	放射線衛生学演習	<p>(概要) 放射線衛生学分野で研究活動を進めていくのに必要な情報の収集元や収集方法に関する知識を習得するために、当講座でルーティンに行われているカンファに参加し実践的にノウハウを学ぶ。また、関連分野の学会や研究会に所属し、それらの学会や研究会に参加し発表することを通じて、関連分野の人的交流を広げ、研究者としての発表能力や質疑応答能力等の質の向上を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	放射線衛生学実習	(概要) 演習で習得していく基本的な研究のための様々な手法を用いながら、さらに各自の研究テーマに即した研究手技・手法を習熟し、実際の試行錯誤を経験しながら実験を組み立て、自分のルーティンを確認していく。その過程で、各自の研究テーマを遂行するにあたり生じる論理的な矛盾点や脆弱さを修正し、より高度な理論の構築や新たなポイントの発見に結びつけ発展させていく能力を身につけることを目標とする。	
	放射線衛生学 論文指導	(概要) 各自の研究テーマにした問題を論理的に説明できる実験結果がそろったら、データ解釈のための解析方法を考え、その手法の正当性やあるいは誤りについてディスカッションを行い、解析をすすめていく。その過程で不足したデータや不要なデータ等の吟味を行い、追加実験等の示唆をおこなう。得られたすべてのデータについて同様の検討を行い、実験方法のまとめ方、結果の解析方法、考察の進め方を実際に論文を作成しながら習得させる。さらに、リバイス原稿のレフリーへの対処法についても習得させる。	
	労働衛生工学特論	(概要) 作業環境管理を実施するにあたって必要な化学物質や物理因子の同定、管理濃度など有害物質の環境基準の作成、作業環境の測定と評価の手法、環境改善のための工学的対策など労働衛生工学について、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。	
	労働衛生工学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、労働衛生工学だけでなく有害因子の暴露を受けた生体の健康影響を中心に医学的な知識を習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	労働衛生工学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対しては毎週の検討会で発表し、議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	労働衛生工学 論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	環境衛生化学特論	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。化学物質による発癌の過程と変異原性試験について事例を示して解説する。	
	環境疫学特論	(概要) 職場の環境問題からグローバルヘルス、さらに地球環境による健康影響など広範なスペクトル上に様々な人の集団の健康問題があることを認識し、課題を抽出し、客観的な評価を加え、対策を立案することを最終目的とする。例えば国内外のフィールドで起きる特定の職業病・職業関連疾患に着目し、その実態記述や因果関係評価に係る疫学的研究手法につき、様々な実例を知り、方法論を習得し、実践応用できるようにする。	
	環境疫学演習	(概要) 研究室で実施する定期的な抄読会・研究会において輪番制で課題を担当し、疫学および周辺医学領域全般にわたる幅広い知識を習得しながら、プレゼンテーションとディスカッション、批判能力を高める。実施中の多地点国際遠隔講義や外国講師によるセミナーにおいて討議・グループワークによる発表に積極的に加わることで知識の幅を広げ、学際的な連携方法を身につける。	
	環境疫学実習	(概要) 取り組むべき課題を確定した後、同課題について専門的な知識を深めるため、関連論文の知見を俯瞰・整理し、問題点や不足している点を見極め、自らの貢献分を予測しレポートにまとめる。国内外の学会で途中経過に関する報告を行う。同時に関連周辺領域について高評価のある国際学術誌の動向にも注意を払い、幅広い科学的素養や英語によるディスカッションスキルを身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	環境疫学論文指導	(概要) 論文テーマとしては職場環境にはじまり、グローバルヘルス、地球環境による健康影響にわたる幅広いスペクトルを見渡し、複数の候補課題について科学的意義や実現可能性、社会に与えるインパクト等につき指導教員とのディスカッションを通じ取り組むべき課題を選定する。妥当な研究計画を企画立案し、フィールドでデータ収集と解析を実行する。データをまとめ論文文化を図る段階では、妥当かつ明瞭な論理を構築した上で得られた知見をアピールできる論文に仕上げていく。そのための試行錯誤を経験する。	
	環境産業疫学特論	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。職業に起因する悪性腫瘍の実例を示し、疫学の研究方法により解説する。	
	集団健診論	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。国内外で行われる集団健診の実例とその有効性・問題点を解説するとともに、集団健診における疫学の基本、疫学研究の方法論を解説する。	
	公衆衛生学特論	(概要) 目標はわが国の公衆衛生の現状と課題、それに対処するための方法論についての知識を修得することである。まず現在わが国が直面する公衆衛生課題について講義やカンファレンス等を通じて学ぶ。そしてそれらに対処するために当教室が研究テーマとして取り組んでいるヘルスサービスリサーチ（DPCを筆頭に保険者が地方自治体も保健データ等の医療政策研究）や健康影響予測評価による政策策定支援等の最新の動向について学び知識を習得する。	
	公衆衛生学演習	(概要) 目標は学術的かつ政策的な議論を自身で展開できるようになることと、各大学院生の研究テーマを決定することである。演習の機会としては抄読会、カンファレンス、セミナー、学内外で開催される勉強会や学術集会等への参加に加えて、行政が主催する委員会等にオブザーバー等として参加し、教員指導のもと実地で学術的、政策的な議論の展開方法を身につける。またこの取り組みのなかで研究テーマを絞り込んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	公衆衛生学実習	<p>(概要) 目標は学位論文につながる研究を企画立案し、実行することである。各院生の研究テーマが決定したところで、教員指導のもと具体的な研究計画を立案し、実行する。その際には倫理的配慮等に関する基準や具体的手続き方法についても実地を通して学ぶ。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(10. 松 田 晋 哉/30回) 大学院生が実施する研究について、総括的な立場から指導を実施する。</p> <p>(38. 藤 野 善 久/30回) 大学院生が実施する研究について、研究計画企画立案から実行、解析、論文化までを一貫して指導する。</p> <p>(63. 久 保 達 彦/30回) 大学院生が実施する研究について、研究計画企画立案から実行、解析、論文化までを一貫して指導する。</p>	オムニバス方式
	公衆衛生学論文指導	<p>(概要) 目標はインターナショナル・ジャーナルにアクセプトされる原著論文を完成させることである。各大学院生が選定した研究テーマについて教員指導のもと論文を前提としたデータ解析を行い、同時に既存の研究では明らかになっていない事項で当該研究が新規性をもって報告できる内容を特定し、解析によって得られた結果についてディスカッションを重ねて英文原著論文の完成させる。 (10. 松 田 晋 哉) 大学院生が実施する研究について、総括的な立場から指導を実施する。 (38. 藤 野 善 久) 研究補助</p>	
	計量分析疫学特論	<p>(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がん治療に関する臨床研究・治験等に必要な臨床疫学、医療統計学の理論と実際を紹介し、留意すべき倫理的問題について解説する。</p>	
	寄生虫学特論	<p>(概要) 寄生虫学は守備範囲が広く、研究者によって内容が異なるが、本科目では寄生原虫病学、寄生蠕虫病学および衛生動物学を対象とする。基礎的な学力を涵養することを目的とし、講義および論文の講読を中心に授業を進める。国内ではみられない疾患や、疾患に関連した生物に関する内容が多くを占めるため、将来熱帯地方を中心に海外で活躍を希望する大学院生にとっては興味ある内容と思われる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	寄生虫学演習	(概要) 大学院生が自らテーマを選び、それに関連した論文を少なくとも5編以上抄読し、まとめ、発表を行う。発表の際は関連分野の複数の教員との討論を予定している。英語論文に親しむことは当然として、データの解釈方法やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。さらには、討論を通じてコミュニケーション能力の涵養を目指す。	
	寄生虫学実習	(概要) 研究を遂行するに際し多くの実験手技を使いこなす必要がある。特に自らの研究テーマに関連した実験手技には熟練することが必須である。動物実験手技、細胞培養法、タンパク質の取り扱い、遺伝子の取り扱い、生物活性物質の測定等々、マンツーマンで指導を行う。これに加え寄生虫そのものの取り扱い飼育方法も学ばねばならない。以上を通じ、独力で研究を遂行できるような能力を身につけてほしい。 (オムニバス方式/全90回)  (11. 金 澤 保/45回) 一般的な実験手技、機器の操作を学ぶ  (39. 長 田 良 雄/45回) 研究に繋用される寄生虫の取扱い方について実践的に指導する	オムニバス方式
	寄生虫学論文指導	(概要) 実験計画、データの解析、統計学的処理、提示方法等々について指導教員と詳細な打ち合わせや討論をおこなう。論文作成のほかに、学会に於ける口頭発表も体験できるよう配慮する。最終的に英文論文を作成し、論文審査委員との意見交換を行い、雑誌に論文が掲載されるまでの流れを体験できるようにする。 (11. 金 澤 保) 選択したテーマについて、研究の進め方やサイエンスの視点から、論文をまとめる方向性について指導する。 (39. 長 田 良 雄) 研究補助	
	産業保健管理学特論	(概要) 1) わが国の労働衛生法令及び政策について、その発展の歴史的な経緯、近年の変化、将来的な課題等の視点から、解説する。 2) 民間企業での産業保健活動について、業種別の現状と課題を解説する。 3) 労働者災害補償保険制度について、業務上疾病の認定に関する基準や近年の紛争事案等を解説する。 以上の講義を通じて、産業保健政策の概要を理解させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	産業保健管理学演習	(概要) 1) 職業性疾病、作業関連疾患、企業の安全配慮義務に関する事例を示しながら、企業等に選任された産業保健専門職として期待される役割やこれらの紛争を予防するために取るべき対策について、小集団で検討する。 2) 労働衛生政策や災害補償政策に関して、わが国と欧米諸国との差異について示しながら、将来の課題と解決策について、小集団で検討する。 以上の演習を通じて、産業保健活動での課題の解決手法を体験させる。	
	産業保健管理学実習	(概要) 産業保健専門職による活動について、実際に現場を巡視させたり、映像資料等を閲覧させたりすることにより、労働衛生分野で未解決の課題やその解決策を推進する上での障害について認識させる。大学院生の興味に配慮しながら、取り組むべき課題の優先順位を決定する。先行研究の調査方法や科学的な思考のあり方について習熟させる。産業現場に成果を還元することを志向した産業医学の研究の推進方法を履修させる。 (オムニバス方式/全90回)  (12. 堀江正知/45回) 学際的な科学を応用し、産業医学の知見及び手法を用いて、産業現場に還元するための科学的な研究の立案、実施、結果のまとめ方等について、指導する。  (40. 井上仁郎/45回) 物理環境の悪化を中心に、労働者へ及ぼす影響と対策の有効性を実験的に検討するために必要な、研究計画、論理的思考法、統計手法について指導する。	オムニバス方式
	産業保健管理学 論文指導	(概要) 産業現場における労働衛生分野の課題を解決するために、産業医学の基盤となる学際的な知見や手法により、産業医科大学や産業医学関連の施設や設備等を活用して研究を推進するための計画を立案させる。産業現場と共同で実施する研究については、倫理的な配慮のあり方を指導する。産学共同で技術的な開発を推進する必要がある場合には、必要な支援を行う。研究の成果を公表するとともに、産業現場で活用するための方策について検討する。 (12. 堀江正知) 学際的な科学を応用し、産業医学の知見及び手法を用いて、産業現場に還元するための科学的な研究の立案、実施、結果のまとめ方等について、指導する。 (40. 井上仁郎) 研究補助	
	神経内科学特論	(概要) 神経内科および心療内科疾患の発症機序、病態生理および神経解剖・病理について、神経生理学、免疫学、分子生物学的研究に基づいた講義やカンファレンスを行い、各疾患の病態解明に必要な能力を習得させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	神経内科学演習	(概要) 関連学会や班研究での研究成果の発表およびカンファレンス、セミナー、抄読会、講演・研究会などの発表等で積極的に関与し、研究テーマに対する知識の更なる向上を図り、研究領域の幅を更に広げることを目指す。研究と関連する他科の研究者との交流を積極的に行い、研究での問題点の議論を行い、研究が進展する能力を身につける。	
	神経内科学実習	(概要) 研究テーマを指導する教員の下で研究の概要をまず検討し、研究の目指す大まかな成果を理解する。次に研究に必要な手法や研究倫理を議論して、研究の方向性を決定する。計画した研究プランに基づいて研究を進めるが、指導教員と研究の方向性について、データごとに議論し、より良い研究の進展を目指す。研究課題でリサーチマインドについても学ぶ。研究成果は学会等で発表する。 (オムニバス方式/全90回)  (41. 赤松直樹/45回) 脳波、誘発電位、経頭蓋磁気刺激を用い、基礎実験および臨床例での応用を行い、その解釈について実践的な指導を行う。  (64. 兒玉直樹/45回) ストレス反応および心身症に関する研究に実験に用いられる手法（機能画像など）の原理および解析法の指導を行う。	オムニバス方式
	神経内科学論文指導	(概要) 研究して得られた成果に対して、指導教員と議論を積み重ねて、データの信憑性、実験手段の妥当性、結果の統計学的解析、研究成果の解釈について徹底的に検討する。必要な研究の追加や問題点があれば、その解決策を指導する。十分な研究結果が得られたと判断されたら、具体的な論文の作成を指導し、論文の内容についても十分に議論し、論文の作成過程を学ばせる。	
	神経内科専門医養成講座	(概要) 神経内科専門医は神経難病等の診断が困難な疾患の診療を求められる。種々の診断手法も必要となるため、神経生理学的（脳波、筋電図、誘発電位検査等）、高次脳機能、免疫学的、遺伝子学的および神経画像的検査等の専門知識を身につけさせる。講義、セミナー等で専門知識を得て、診療現場で実践的に専門医に必要な知識を習熟させる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	精神医学特論	(概要) 精神医学、産業精神医学、緩和ケアおよび精神科治療学という精神医学4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、精神医学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	精神医学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、精神医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、精神医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	精神医学実習	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと生化学的試料の測定、生理学的なデータを統計学的手法を用いて検討して討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (オムニバス方式/全90回)  (42. 新 開 隆 弘/45回) 臨床遺伝学的方法を用い、統合失調症などの臨床例および企業の労働者を対象にした統計解析に関する研究指導を行う。  (43. 吉 村 玲 児/45回) 統合失調症やうつ病などの精神障害患者を対象に、その薬理学的な反応性を生化学的な手法や放射線医学との連携で検討する。	オムニバス方式
	精神医学論文指導	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (42. 新 開 隆 弘) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (43. 吉 村 玲 児) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	精神科専門医・精神保健指定医養成講座	(概要) 精神科専門医には、統合失調症、気分障害、認知症、児童思春期など幅広い精神障害の診断及び治療はもとより、精神薬理学、司法精神医学、社会精神医学、産業精神医学などの知識と実践が必要であり、認知機能評価、脳磁気共鳴画像による診断技術や生理機能評価など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、精神科専門医の資格取得を目指す。指導医の指導の下、日本精神神経学会の研修手帳に記載された症例に対する診断、治療、他科との連携を実践すると共に、緩和ケアチームの一員としても活動できるようにする。また、措置入院症例を含む必須8症例のケースレポートを作成するために、それぞれの症例に対する臨床症状の評価、診断、治療、家族への対応を含めた指導を精神保健指定の受けながら作成する。	
	職業性中毒学特論	(概要) 産業医学分野において重要な毒性学・中毒学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。毒物の動態・代謝、毒性発現様式、毒性発現機序、ならびに既知の化学物質による有害作用といった産業中毒の基礎を学ぶ。それとともに今後産業現場に導入される新規の化学物質についても、その毒性発現機序を推定し、有害作用を予測することで産業現場での作業管理、作業環境管理、健康管理に対して実践応用できる力を習得する。	
	職業性中毒学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産業中毒の全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、毒性学や中毒学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	職業性中毒学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	職業性中毒学 論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。	
	がん患者の職場復帰 と産業医の役割	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がん人口の増加やがん検診精度の向上とともに、いわゆる働き盛りのがん罹患が増加し、さらに治療成績が大幅に向上したことにより、様々な職種においてがん患者が職場復帰する事例が増えている。職場復帰の支援さらには復帰後の長期的な支援における産業医の役割について事例を交えて解説するとともに、現場での経験を積む。	
	病態制御内科学特論	(概要) 免疫学、臨床免疫学（リウマチ学）、内分泌学、代謝学（糖尿病学）、血液学、感染症学から、2分野を選択する。各分野全般に亘り、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。あらゆる医学の基盤である内科学に関して、常態、および、全身性疾患の病態を通じて基礎医学的知見を習得する。さらに、全身性内科疾患の病態制御を旨とした研究に発展応用する能力の習得を目指す。	
	病態制御内科学演習	(概要) 内科学全般にわたる幅広い基礎知識を討論、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学会等の多彩な機会を介して実践的に習得する。また、大学院生自らの発表、議論を通じてプレゼンテーションおよびディスカッション能力を習得する。これらの演習を通じて、現在の内科学、及び、内科疾患の病態制御における潮流を実感することで、自らの研究テーマを見出すと同時に、自身の研究テーマや成果の問題点を解決していく能力の獲得を目指す。さらに、自身の研究テーマの展開を考察する事により、新たな研究テーマの創出や長期的展望を持つ能力の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	病態制御内科学実習	<p>(概要) 指導教員と十分に議論し、研究者の希望、世界最先端の流れを考慮し、最も興味深く、実践可能な研究テーマを選択する。また、研究の方向性や研究倫理などの指導を受け、研究の組み立て方を学ぶ。次に、具体的な研究手技・手法、得られた結果の解釈、新たな研究目標の設定については、教員から指導を受けると同時に、他の大学院生を含めたグループ討論を反復して、実践的、効率的、有機的な研究を実践、展開する。さらに、議論の反復により、科学的、創造的な研究思考を習得し、疾患の病態制御を目指した研究に発展させる。結果のまとめ、学会発表等においては、聴衆を意識したより高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(14. 田 中 良 哉/30回) 研究テーマは、研究者の希望、及び世界最先端の流れを考慮し、最も興味深く、実践可能なものを選択する。テーマの実践に於いては、研究手法や研究倫理をグループ及び個人で指導し、効率的、有機的に行う。得られた結果の解釈、まとめ方は、グループ及び個人で実践的討論を反復しながら指導する。充実した指導体制、反復したグループ・個人討論により、世界をリードできるよりレベルの高い論文作成を目指す。</p> <p>(44. 齋 藤 和 義/30回) 免疫監視機構の概念とそれらの異常・不均衡が齎す自己免疫疾患・免疫不全症・感染症の病態機構を検討する。疾患活動性指標、治療抵抗性に関与するバイオマーカーをin vitro, vivoの検討で創出し、統計学的手法を用いて新たな治療アルゴリズム、オーダーメイド医療を構築する。また、これらの疾患の生命予後に関与する脂質代謝、骨代謝、免疫不全による合併症の早期予知と予防法確立を目指した基礎的・臨床的検討を行う。</p> <p>(65. 岡 田 洋 右/30回) 内分泌や糖尿病代謝疾患を中心に、基礎実験及び臨床例での最新のバイオモニター装置を用いて研究指導し、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方について実践的指導を行う。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	病態制御内科学 論文指導	<p>(概要)</p> <p>研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと、及び、大学院生グループで、統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。その際、結果に基づき論文構成を意識した議論を行い、論文図表となる実験計画を組むことで、論文化への問題点を常に明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。</p> <p>(14. 田 中 良 哉)</p> <p>研究テーマは、研究者の希望、及び世界最先端の流れを考慮し、最も興味深く、実践可能なものを選択する。テーマの実践に於いては、研究手法や研究倫理をグループ及び個人で指導し、効率的、有機的に行う。得られた結果の解釈、まとめ方は、グループ及び個人で実践的討論を反復しながら指導する。充実した指導体制、反復したグループ・個人討論により、世界をリードできるよりレベルの高い論文作成を目指す。</p> <p>(44. 齋 藤 和 義)</p> <p>研究補助</p>	
	リウマチ専門医 養成講座	<p>(概要)</p> <p>リウマチ専門医資格の取得を目指す。リウマチ専門医とは、リウマチ・膠原病の診療に必要な知識と技能を有する医師である。これらは、全身の各臓器にわたる病変を対象とする疾患であるため、専門的な医療によつて的確な診断と治療を行い、臓器障害の発生・進行を防ぎ、生活の保持・向上に努めることが求められる。また、免疫学、臨床免疫学の基礎知識の習得し、病態を理解する必要である。さらに、免疫難病に対する新規治療の開発を目指したトランスレーショナルリサーチを実践し、免疫難病の病態制御を目指した先端医療を展開する。</p>	
	糖尿病専門医・内分泌専門医養成講座	<p>(概要)</p> <p>糖尿病専門医資格を取得する事を目標として、糖尿病患者の診療を担当し、糖尿病診療に関する十分な知識と経験を習得する。また、専門医として糖尿病学の発展に貢献できるように、臨床的に有益な知見を自ら見いだして、その成績を発表するためのトレーニングを同時に行う。内分泌専門医として、病態生理を形態学・生理学・免疫学・分子生物学などから多面的に解析し、診断・治療への展開について、講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、内分泌専門医の資格取得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	病態病理学特論	(概要) 様々な疾患の原因とその成り立ち、病変の形成機序や転帰に関わる病理学的な基礎知識を習得すると共に、それらの病態を把握しながら病変の肉眼・組織学的特徴を理解し、代表的な疾患の病理組織診断や細胞診断、病理解剖診断を的確に下せるような能力を身につけることが目標である。講義に加え臨床各科とのカンファレンスや病理解剖所見会などを通じて、それらの知識と技能を習得し、科学的で論理的な考え方を養うことを目指す。	
	病態病理学演習	(概要) 病理組織診断や病理解剖の場に参加し、所見の取り方や記録の仕方を学ぶと共に医療において病理学の果たす役割や意義を理解する。病理解剖所見会や臨床各科とのカンファレンス、セミナー、学会などに参加し、病理学に関連した基礎的および最新の知識を習得することを志す。さらに、それらでの発表の機会を利用して、症例報告のまとめ方やプレゼンテーションのスキルを磨く。また、病変の病理学的解析を通じて、自らの研究テーマや研究手法についてのアイデアや応用の仕方を考え、具体的な研究計画を立案する。	
	病態病理学実習	(概要) 切り出しを含む病理検体の処理法と標本作成法、各種染色法、免疫組織化学、分子遺伝学的解析法の知識と技術を習得すると共に、病変の顕微鏡観察法や病理学的所見の評価法、統計学的解析手法についても修練を行い、自らの研究に対して得られた知識や技術を応用する。また、研究結果に対する考察の仕方や関連分野での文献検索法、レビューの仕方、効果的なプレゼンテーション手法を習得する。 (オムニバス方式/全90回)  (15. 久岡正典/45回) 研究テーマに則した計画の立案と実験手法の技術的指導、得られた結果の解析とまとめ方の指導を行う。  (66. 松山篤二/45回) 病理学的検索法と免疫組織化学、分子遺伝学的研究法の指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	病態病理学論文指導	(概要) 自らの研究テーマに対する動議づけを明確にし、具体的で実行可能な研究計画を立案した上で研究遂行に臨み、得られた結果を論理的に分析すると共に的確な考察を行い、研究の集大成としての科学論文を英文で執筆できるように指導を行う。なお、この過程で論文の構成・文章の組み立て方や論理の展開法、慣用表現の使用法などの論文執筆と投稿に関わる執筆の技法について習熟させる。また、査読の過程で明らかとなった問題点を解決できるように助言と指導を行う。 (15. 久岡正典) 研究テーマに則した計画の立案と実験手法の技術的指導、得られた結果の解析とまとめ方の指導を行う。 (66. 松山篤二) 研究補助	
	病理専門医養成講座 I	(概要) (社)日本病理学会認定の病理専門医の資格取得に関しては、基礎的で一般的な病理学的知識に加え、各種染色法や標本作成手技を含む病理検査室での実践的な内容に関する知識と共に、全身の諸臓器にわたる多様な疾患の病理診断を的確に下せる能力が特に求められる。さらに、一定件数以上の病理組織診断と病理解剖の経験や学術論文も必要である。これらの技能や要件を満たせるような修練を行い、同資格の取得を目指す。	
	細胞診専門医 養成講座	(概要) (社)日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医に関しても、病理専門医と同様に幅広い分野にわたって実地診療に密着した高度な細胞診断能力が求められる。細胞診専門医資格取得に十分対応できるような知識と技術の習得を目指す。	
	環境発癌	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。環境発癌について、発癌のメカニズムから、癌細胞の遺伝子および染色体の変化の特性まで概説する。	
	TNM分類・ 病期診断	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がんの診療において必須の基本知識であるTNM分類と病期診断について、実例を基に解説し、実践的に応用できる知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	微生物学特論	(概要) 医学微生物学から感染制御学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心に学ぶ。微生物学的観点から生命現象の基本的概念を学ぶと同時に、感染制御の観点から、臨床現場での感染症対策のための経験を蓄積する。感染症の予防、治療、検査、診断、感染制御対策など臨床現場における微生物学的問題点、感染症および感染制御に対する臨床上の問題点を抽出・整理し、発展応用する能力の習得を目指す。	
	微生物学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの様々な機会を通して、微生物学、感染制御学に関する幅広い基礎知識を実践的に習得する。さらに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、微生物学または感染制御学に関する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	微生物学実習	(概要) 研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (67. 小川みどり/45回) 結核菌、抗酸菌の潜伏感染、再活性化機構の分子遺伝学的、形態学的解析  (68. 福田和正/45回) 細菌叢の分子遺伝学的解析	オムニバス方式
	微生物学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について話し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (11. 金澤保) 選択したテーマについて、研究の進め方やサイエンスの視点から、論文をまとめる方向性について指導する。 (67. 小川みどり) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	消化器内分泌外科学 特論	(概要) 臨床医学分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる医学の基盤ともなっている臨床医学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	消化器内分泌外科学 演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、臨床医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、臨床医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	消化器内分泌外科学 実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (17. 山 口 幸 二/45回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (45. 日 暮 愛 一 郎/45回) 肝胆膵、上部消化管、下部消化管、乳腺・内分泌を中心に研究指導を行う。	オムニバス方式
	消化器内分泌外科学 論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (17. 山 口 幸 二) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (45. 日 暮 愛 一 郎) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	外科専門医養成講座	(概要) 外科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。 術前術後、外科手術手技、周術期管理などの習得が必要である。これらを講座の講義、セミナー、カンファレンス等で習得すると共に医療現場で実践的に習熟し外科専門医の資格取得を目指す。	
	腹部障害特論	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。腹部の手術侵襲による生体の反応とそれに伴う臓器障害について実例を示しながら解説する。	
	腹部外科腫瘍学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。成人における腫瘍の外科治療について実例をもとに具体的な手法、手術成績、予後などを解説する。	
	腹部外科再建外科学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。肝、胆、膵、脾、消化管の手術における再建外科学、術後の代謝障害について、実例を示しながら解説する。	
	がん治療の基本原則 I	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。胸腹部外科手術の適応および禁忌、悪性腫瘍の病期分類、根治療法、緩和治療における手術の役割を解説する。	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	胸部外科学特論	(概要) 呼吸器外科（肺・縦隔および胸膜疾患）および乳腺外科の全般にわたり、特に悪性腫瘍についての診断と治療について、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を習得する。同時に最新の診断や治療法について自ら考えて実践する能力の育成を目的とする。	
	胸部外科学演習	(概要) 呼吸器外科と乳腺外科全般にわたる幅広い基礎知識を抄読会・カンファレンス・セミナー・各種研究会等に参加して習得するとともに、議論を通して考える能力を身につけ更に自らはy yプおすることにより高いプレゼンテーション能力を身につける。最終的には、胸部外科の問題点を明らかにして自分の研究テーマを決定する。	
	胸部外科学実習	(概要) 自分の研究テーマを決定したのちに、指導教員のもとで具体的な研究の概要や方法・手技等について議論を行い、研究の実施に向けての準備を行う。教員の指導の元に実際に研究を開始し、得られた結果や問題点・改良点等について議論を行い、研究の円滑な遂行を目指す。研究セミナーを通じて研究に関する多方面からの批判・評価を受けて議論する中で、より研究を深めるとともに研究者としての総合的な思考能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (18. 田 中 文 啓/45回) 呼吸器外科に関する基礎実験及び臨床例でのデータ収集・分析等の研究指導を行う。  (46. 花 桐 武 志/45回) 乳腺外科に関する基礎実験及び臨床例でのデータ収集・分析等の研究指導を行う。	オムニバス方式
	胸部外科学論文指導	(概要) 研究結果を指導教官と議論しながら論文として論理的にまとめる。この段階で浮き彫りになった問題点解決するため必要であれば追実験をを行い、論文の質の更なる向上を図る。最終的に、研究結果を正しくかつよりインパクトのある形で世間に問うために、論文の文章校正や理論展開等について細部にわたって指導教官と議論を重ね、研究者として独り立ちできる修練を行う。 (18. 田 中 文 啓) 呼吸器外科に関する基礎実験及び臨床例でのデータ収集・分析等の研究指導を行う。 (46. 花 桐 武 志) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	呼吸器外科専門医 養成講座	(概要) 呼吸器外科または乳腺外科、いずれか大学院生自身のスペシャリティーを決定したのちに、呼吸器外科分野について専門医として日本をリードできる臨床能力を習得させる。すなわち、臨床手技のみならず、その背景となる基礎医学・統計学や臨床腫瘍学・情報通信技術(IT)等の幅広い分野について、指導教員あるいは必要があれば外部講師を招いて指導を行い、本人の希望を勘案したうえで呼吸器外科専門医・がん薬物療法専門医等の資格取得を目指す。	
	乳腺外科専門医 養成講座	(概要) 呼吸器外科または乳腺外科、いずれか大学院生自身のスペシャリティーを決定したのちに、乳腺外科分野について専門医として日本をリードできる臨床能力を習得させる。すなわち、臨床手技のみならず、その背景となる基礎医学・統計学や臨床腫瘍学・情報通信技術(IT)等の幅広い分野について、指導教員あるいは必要があれば外部講師を招いて指導を行い、本人の希望を勘案したうえで乳腺専門医・がん薬物療法専門医等の資格取得を目指す。	
	胸部障害再建外科学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。呼吸器系がん及び食道系がん手術における再建外科学、術後の代謝障害について、実例を示しながら解説する。	
	がんゲノム情報解析 Ⅱ	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がんゲノム情報解析によるがんの診断や治療における個別化及びがんの予防における有用性につき、実際の応用例を示しながら最新の解析手法を交えて解説する。	
	整形外科特論	(概要) 整形外科における診断学と治療学を、関節外科、手外科・外傷、脊椎・脊髄、スポーツ整形外科の4分野にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を習得するとともに実臨床に応用するための技術を蓄積する。すなわち、整形外科の基礎を学び、実臨床に応用する能力の習得と向上が目的である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	整形外科学演習	(概要) ジャーナルクラブ（当整形外科で毎週行っている抄読会）、カンファレンス、セミナー、研究会など多くの機会を通して、整形外科全般に渡る幅広い基礎知識を習得する。大学院生自らが発表し、討論することによって、データをまとめる能力、プレゼンテーションする能力、ディスカッションする能力の3つの能力を身につける。他人の論文を客観的、時に批判的に読解する能力を養う。	
	整形外科学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったら、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関して議論を行い、研究を組み立てる。得られた結果は、その都度議論する。暫定的なデータをまとめた上で、ラボミーティング（当整形外科で毎月行っている研究検討会）で毎月発表・討論する。科学的なものの捉え方・考え方を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (47. 酒 井 昭 典/45回) 骨代謝領域を中心に、遺伝子改変動物を含む小動物を用いた基礎実験を行う。骨組織標本の作製、骨形態計測法を中心に指導する。  (69. 大 西 英 生/45回) 関節外科を中心に、基礎研究及び臨床研究での画像情報と臨床成績の関連性に関する研究指導を行う。	オムニバス方式
	整形外科学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員の下で統計学的な解析手法を用いて、データを整理し、その結果について討論する。その時点における問題点や課題を明確にし、不足したデータがあれば追加実験を行う。実際に論文を書きながら、指導教員と議論する。論文の添削・修正を繰り返すことにより、論文の書き方を身につける。 (47. 酒 井 昭 典) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果を統計学的に解析し、討論を通じて指導を行う。 (69. 大 西 英 生) 研究補助	
	整形外科専門医 養成講座	(概要) 整形外科専門医には、高度な幅広い専門知識が要求される。全身の骨・関節、軟部組織（皮膚・筋・腱など）、神経・血管における疾患・外傷の診断と治療に関することはもとより、リハビリテーション、医療安全、医療法規を含む包括的かつ実践的な知識と技術を修得することが必要である。講義やセミナーを通じて、整形外科専門医の資格取得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	リハビリテーション 医学特論	(概要) リハビリテーション医学の基本的概念やその手法を理解し、臨床や研究の現場で活用できる能力を習得する。リハビリテーション総論（総論、解剖生理学、運動学、診断学、機能障害の評価、リハビリテーション治療学など）、各論（脳血管疾患、骨関節疾患、神経筋疾患、切断、小児疾患、内部疾患等のリハビリテーション）及び地域リハビリテーションなど広く分野を、講義やカンファレンスを通じて学ぶ。	
	リハビリテーション 医学演習	(概要) リハビリテーション医学を基礎から臨床にわたる幅広い知識を実践的に習得し、臨床や研究の現場で実践できる能力を習得する。外来・病棟カンファレンス、抄読会（リハビリテーション部合同・医局）、セミナー（北九州リハビリテーション医会、産業医科大学リハビリテーション医療研究会など）、研究会などに参加する。カンファレンス、抄読会等で、自ら発表・議論を行うプレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける。	
	リハビリテーション 医学実習	(概要) 研究を自ら立案、実行できるリサーチマインドを身につけ、結果を学会発表にてわかりやすく論理的にプレゼンテーションできる能力を高める。指導教員の下でテーマ及び計画のアウトラインを立案し、その具体的な方法や倫理への配慮などを他の研究者を含めて議論する。研究を開始後は、随時、指導教員と得られた結果を協議し、問題を明らかにし、その解決方法を見つけ出す。 (オムニバス方式/全90回)  (48. 和 田 太/45回) リハビリテーション医学に関するテーマを選択、研究立案や研究倫理への配慮などの指導を行う。得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 生体運動機能計測（歩行解析、酸素摂取量、表面筋電図）に関連する研究指導を行う。  (70. 岡 崎 哲 也/45回) 高次脳機能における基礎実験及び臨床例での研究指導を行う。	オムニバス方式
	リハビリテーション 医学論文指導	(概要) 論文作成の方法を論文執筆の過程を通じて系統的かつ実践的に修得する。指導教員のもと実験結果を解析し、討論する。論文作成時に随時、指導教員と議論し、論理的に論文を構成、執筆する。研究方法や結果の適切な提示、緻密な議論を展開し、適切な結論を導く方法を学ぶ。 (48. 和 田 太) リハビリテーション医学に関するテーマを選択、研究立案や研究倫理への配慮などの指導を行う。得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 生体運動機能計測（歩行解析、酸素摂取量、表面筋電図）に関連する研究指導を行う。 (70. 岡 崎 哲 也) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	リハビリテーション 専門医養成講座	(概要) リハビリテーション専門医には、リハビリテーション医学領域の専門知識のほか、幅広い各科と関連する専門知識も求められる。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医の資格取得を目指す。	
	消化器内科学特論	(概要) 消化器内科学全般の消化管、肝胆膵の臓器の構造、機能を理解する。消化器疾患の病態を分子レベルで理解して、その治療の意義を論理的に理解する。これらをカンファランスや指導医とのdiscussionにて学び、さらに新たな知見を探る方法を考える能力も身につける。これらにより消化器病学の領域での新たな知見を世界に発信することを目的とする。	
	消化器内科学演習	(概要) カンファランス、セミナー、研究会や学会を通して消化器内科学全般の知識と研究の進め方を積極的に学ぶ。さらに指導医との直接のdiscussionにて研究の方法、結果の解釈の仕方やプレゼンテーションの方法を学ぶ。さらにカンファランス、研究会や学会にて発表を行ないプレゼンテーションの経験を積む。また先輩や他の研究機関の発表も参考にして研究会や学会では積極的に質問やコメントを述べるように努める。	
	消化器内科学実習	(概要) 消化器病学の中より基礎的もしくは臨床的な研究テーマを決定し、その分野の重要な論文を詳細に調べ、研究方法を決定する。指導医ならびに先輩に実験手技等の指導を受けながら研究を進め、その際も最新の論文を読みながら自らさらになすべきことを考える。指導医はその方向が誤った方に行かないように指導する。研究方法に関しては積極的に当教室でこれまで行なわれていないような方法、手技を取り入れるように努力する。 (オムニバス方式/全90回)  (21. 原 田 大/30回) 脂肪性肝疾患の基礎的研究とウイルソン病の臨床的研究の指導を主に行う。  (49. 久 米 恵一郎/30回) 消化管内科の最新の動向、考え方、解釈について指導を行う。  (71. 山 本 光 勝/30回) 主に、慢性膵炎の基礎研究や臨床研究について指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	消化器内科学 論文指導	(概要) 研究の推進により様々なデータが得られるが、それが過去の論文といかに関連するか等を考えながら、方法の問題点等を考える。結果の妥当性を考えながら最新の論文を常に調べ、さらになすべき仕事を考える。結果に筋道だった理論を考え、discussionを整えて論文の執筆を行なう。論文の執筆においてはそれが、十分にその結果から述べられる結論であるか否かを客観的に評価する。その理論の進め方が正しいか否かを指導医は評価して指導する。 (21. 原 田 大) 脂肪性肝疾患の基礎的研究とウイルソン病の臨床的研究の指導を主に行う。 (49. 久 米 恵一郎) 研究補助	
	皮膚科学特論	(概要) 皮膚病診断学、皮膚病理学、皮膚科検査法および皮膚病治療学という皮膚科4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、皮疹から全身疾患を診断し、病態を考察し、治療を行う能力の習得を目指すのが目的である。	
	皮膚科学演習	(概要) カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、皮膚科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、皮膚科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	皮膚科学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	皮膚科学論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表を実践的に修得する。	
	皮膚科専門医養成講座	(概要) 皮膚科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。視診による皮膚病診断学はもとより、皮膚病理学、皮膚外科、皮膚免疫学、アレルギーの抗原同定のための種々の検査の習熟、熱傷など救急皮膚疾患への対応など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、皮膚科専門医の資格取得を目指す。	
	泌尿器科学特論	(概要) 泌尿器科学全般にわたり講義を行い、手術、症例、病理の各カンファレンスに参加し、基礎および実際の泌尿器科臨床について学ぶ。	
	泌尿器科学演習	(概要) カンファレンス、講義、研究会に参加し、泌尿器科学全般にわたって知識を得る。また、研究会では演題を準備し、プレゼンテーションを行う。さらに自分の研究テーマがどのように泌尿器科学に関与し、どのようにすれば泌尿器科学の発展に寄与できるかを考える。	
	泌尿器科学実習	(概要) 研究テーマにそって指導教官のもとで、研究の方針を立て、仮説を証明するための実験方法を計画し、実際に実験を行う。定期的に研究結果、方針につき指導教官とディスカッションを行い、研究の方法を学ぶ。さらに、臨床へのトランスレーションを考えながら研究を進行させていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	泌尿器科学論文指導	(概要) 多くの論文を読み、論文の形式、記載方法を学び、かつ論文に対する批評ができるようにする。自分の研究結果については、結果のまとめ方、読者の興味を引くような表現方法、読者にわかりやすく簡潔にまとめる能力など論文執筆方法を学びながら、論文を完成し投稿する。	
	泌尿器科専門医養成講座	(概要) 臨床医として全身疾患を理解できるようにし、そのうえで感染症、悪性疾患、結石、腎不全、排尿障害、内分泌疾患、緊急処置、先天異常など幅広く泌尿器科的な専門知識・手技を取得する。講義、カンファレンス、研究会への参加、実際の診察・検査・手術の見学およびこれに参加することにより泌尿器科専門医としての知識と手技を得て、泌尿器科専門医の資格取得を目指す。	
	がん診療体制の整備とがん診療における医療連携	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がん診療に携わる者として国のがん対策基本計画を理解しておくことは重要である。がん対策基本計画の概要を解説するとともに、がん診療連携拠点病院の仕組みや役割、それぞれの医療機関におけるがん診療体制、及びがん診療における医療連携の重要性について解説する。	
	循環器学特論	(概要) 循環器病学を非侵襲的診断・侵襲的治療・不整脈の3分野にわたり、講義やカンファレンスを通して基礎知識を得る。循環器病の基本病態を学び、それに対処する治療の本質を学び、解明されていない病態生理や現在の診断・治療の問題点を理解する。	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	循環器学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などを通して、循環器病学全般にわたる基礎知識を実践的に習得する。このような機会に大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。さらに、これらを通じて現在の循環器病学の問題点を理解し、自らの研究テーマ(仮説)を見つけ、解決していく方法を考案する。	
	循環器学実習	(概要) 自分の研究テーマが決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。仮説を証明するために対象の選び方・得る情報の選択およびその方法を特異的に考える必要があることを指導を受け、学び、実際に研究を開始する。得られた結果に対して指導教員と議論する。新規性の重要性、科学的な考え方を理解する。学会発表等においては、聞く人の立場に立って自分の発表を客観的に眺め、他人に理解される高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (24. 尾 辻 豊/30回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (51. 竹 内 正 明/30回) 非侵襲的診断に関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (72. 園 田 信 成/30回) 侵襲的治療に関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。	オムニバス方式
	循環器学論文指導	(概要) 研究テーマについて結果が得られたら、仮説と合致しているか検討する。合致していない時には仮説が間違っていたのか?結果が不正確なのか?問題点を指導教員と検討する。論文執筆においては、「仮説の証明」が最優先事項であることを認識し、実際に論文を書く。現在の論文の基本構造・構成は仮説の証明を行うために工夫されているものであることを理解する。指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の記載、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (24. 尾 辻 豊) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (51. 竹 内 正 明) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	腎臓学特論	(概要) 腎臓生理学、酸塩基平衡、電解質異常、糸球体疾患、尿細管間質性疾患、遺伝性腎疾患、急性および慢性腎不全、血液透析療法や腹膜透析療法などの透析療法学など、腎臓内科に関わる領域について講義やカンファレンスで基礎的知識を得るのみならず、実践応用を行うことができるための学習を行う。腎臓病理学についても腎生検カンファレンスで学習する。	
	腎臓学演習	(概要) 症例検討会、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学会などに参加し、腎臓内科学全般にわたる幅広い基礎知識を習得するとともに、自ら発表も行い、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を習得する。腎生検を担当し、免疫染色法を実践するとともに、病理診断も行う。腎臓内科学に関連する最新の原著論文を読むことや、学会発表を聞くことにより、腎臓内科学のトレンドを学び、自ら研究目標を見いだす能力を持つことができるようにする。また、カンファレンスなどで進んで研究テーマについて発表を行う。	
	腎臓学実習	(概要) 腎臓病学に関する研究テーマを指導教員の指導の下で決定し、具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関して学習し、研究へ取り組んでいく。研究手技やそこから得られた結果について随時指導教員とディスカッションを行い、研究方針へフィードバックする。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを学習する。得られた成果は学会等で積極的に発表することにより、高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (24. 尾 辻 豊/30回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (51. 竹 内 正 明/30回) 腎疾患の診断に関するテーマに対して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (72. 園 田 信 成/30回) 腎疾患の治療に関するテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	腎臓学論文指導	<p>(概要) 研究により得られた結果を学術論文にまとめるための方法を学ぶ。研究結果を解析し、論文として構成していく際に必要な次のステップを決め、論文の全体像を組み立てていく。研究成果は学会などでの発表により第三者の批判、討論も受け、研究の問題点を明らかにする。必要な関連する論文も調べ、参考文献として組み立てていく。実際に論文を執筆し、指導教員との議論の下で修正を繰り返すことを通して、論文の構成、記述、さらに論文投稿の方法などを理解する。</p> <p>(24. 尾 辻 豊) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。</p> <p>(51. 竹 内 正 明) 研究補助</p>	
	腎臓専門医養成講座	<p>(概要) 認定内科医や総合内科専門医のみならず、腎臓内科学に必要な腎臓専門医・指導医、透析専門医・指導医の取得も行うため、高度かつ幅広い専門知識の習得と実践も行う。腎センターや腎臓内科において症例を経験し、指導医の下で実践を積むとともに、研究会や学会への参加を行い必要な単位の取得も行う。</p>	
	循環器専門医養成講座	<p>(概要) 認定内科医や総合内科専門医のみならず、循環器内科学に必要な日本循環器学会専門医の取得も行うため、高度かつ幅広い専門知識の習得と実践も行う。大学病院において症例を経験し、指導医の下で実践を積むとともに、研究会や学会への参加を行い必要な単位の取得も行う。</p>	
	放射線科学特論	<p>(概要) 放射線診断学、核医学、IVR（インターベンショナルラジオロジー）および放射線治療学という放射線医学4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる医学の基盤ともなっている放射線科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。</p>	
	放射線科学演習	<p>(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、放射線医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、放射線医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 領域 科目	放射線科学実習	<p>(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(25. 興  梶  征  典/30回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。</p> <p>(52. 青  木  隆  敏/30回) 胸部や骨軟部領域を中心に、基礎実験及び臨床例でのCAD（コンピュータ支援診断）解析法、MRI特殊撮像法に関する研究指導を行う。</p> <p>(73. 掛  田  伸  吾/30回) 中枢神経系を中心に、基礎実験及び臨床例でのMRI特殊撮像法、画像情報データ統計解析に関する研究指導を行う。</p>	オムニバス方式
	放射線科学論文指導	<p>(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (25. 興  梶  征  典) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (52. 青  木  隆  敏) 研究補助 (73. 掛  田  伸  吾) 研究補助</p>	
	放射線科専門医 養成講座	<p>(概要) 放射線科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、全身の臓器に及ぶ画像診断学はもとより、放射線生物学、放射線防護・安全管理、放射線物理学、IT（情報通信技術）、IVR（インターベンショナルラジオロジー）、核医学、磁気共鳴画像の原理、造影剤と副作用の対応など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、放射線診断専門医の資格取得を目指す（放射線治療専門医養成はがん専門医養成特別コースで行う）。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	放射線腫瘍学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がんに対する放射線治療の作用機序、臨床的有効性、放射線治療に抵抗性のがんとその対策、将来展望について解説する。	
	呼吸器内科学特論	(概要) 呼吸器内科診断学、治療学を中心とした内科学全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、内科学、呼吸器内科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	呼吸器内科学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、呼吸器内科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、内科学、呼吸器内科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	呼吸器内科学実習	(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (26. 迎 寛/45回) 研究テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方やまとめ方についての実践的な指導を行う。  (53. 矢 寺 和 博/45回) 主に呼吸器疾患の画像や生理機能、病態生理を中心に、基礎実験及び臨床研究に関する研究指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	呼吸器内科学 論文指導	(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと正しい統計学的手法も用いて実験結果について討論し、結果についての解釈や問題点を明らかにする。このような過程を繰り返すことにより研究の科学論文としてのまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (26. 迎 寛) 研究テーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方やまとめ方についての実践的な指導を行う。 (53. 矢 寺 和 博) 研究補助	
	呼吸器内科専門医 養成講座	(概要) 内科医、呼吸器内科医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、問診をはじめとして内科診察の技能、知識に加えて、胸部放射線診断を中心とした画像診断学、血清学診断学などの血液検査や治療学、薬剤性副反応やその対応、気管支鏡検査技術の習熟など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、実際の診療現場で実践的に習熟し、内科専門医、呼吸器内科専門医、気管支鏡専門医の資格取得を目指す。	
	人間工学特論	(概要) 産業医学における人間工学の研究分野について、基本的な事項から最新の知識まで、講義などを通じて習得できるようにする。加えて、研究を進める上で必要となる、生体の観察や生体の状態を把握するための、生理学あるいは工学的な手法についても教授し、それを応用するための基礎作りを行う。また近年注目されている、産業医学における睡眠衛生の知識や睡眠障害の問題についても、その基礎的な事項から最新研究まで解説を行う。	
	人間工学演習	(概要) Journal Club、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、人間工学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。具体的には、Journal Clubで人間工学領域あるいは睡眠学領域の最新の英語原著論文を読み、内容を参加者に紹介するとともに、その研究の問題点等についての討論を行う。これらを通じて、自らテーマを見出し、研究を遂行していく能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	人間工学実習	<p>(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表も行い、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(27. 藤 木 通 弘/45回) 選択したテーマ、特に睡眠覚醒調節の病態生理学的基礎研究に関して、研究手法、結果の解釈、まとめ方などについての実践的な指導を行う。</p> <p>(54. 泉 博 之/45回) 人間の動作および姿勢制御に関して、基礎実験および職域における調査研究で使用する各種測定・評価技法に関する研究指導を行う。</p>	オムニバス方式
	人間工学論文指導	<p>(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (27. 藤 木 通 弘) 選択したテーマ、特に睡眠覚醒調節の病態生理学的基礎研究に関して、研究手法、結果の解釈、まとめ方などについての実践的な指導を行う。 (54. 泉 博 之) 研究補助</p>	
	脳神経外科学特論	<p>(概要) 脳神経外科学全般にわたり、急性期疾患の管理・治療から慢性期の患者管理に至るまで、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時にそれを実践応用できるように経験を蓄積する。脳神経外科という特殊性を認識、理解し、実践応用可能な能力を習得することを目指すのが目的である。</p>	
	脳神経外科学演習	<p>(概要) 毎日のカンファレンス、手術、病棟実習、外来患者の診察、セミナーや研究会を通して、脳神経外科学全般にわたる幅広い基礎知識を習得し、それを実践的に応用できるようにする。こうした経験を通して、自ら脳神経外科学における研究テーマを見出し、自分で解決していく能力を獲得することを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	脳神経外科学実習	<p>(概要) 自らの研究テーマが決まったら、指導教官のもとで、研究の具体的な方法論、手技、データの解釈、研究倫理などに関する議論を行い、大学院生自らの力で研究会で発表する力、討論する力を養い、研究における基礎的能力を身につけることを目指す。具体的には関連する論文を読みこなし、それを理解・批判する能力を習得する、論文から新たな研究視点を見出すなどのより高度な能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(28. 西 澤 茂/30回) 選択した研究テーマに関して、研究法やデータ解釈などの指導を行う。また論文のまとめ方、研究発表の仕方を指導する。</p> <p>(55. 山 本 淳 考/30回) 実践的な実験方法、手技、データ解釈などを指導する。</p> <p>(77. 副 島 慶 輝/30回) 脳神経外科学臨床を中心に指導し、研究テーマの妥当性、正当性を指導する。</p>	オムニバス方式
	脳神経外科学 論文指導	<p>(概要) 研究テーマで、指導教官のもと、研究を行い、そこで得られた実験データを論理的に解釈し、その妥当性、矛盾点を科学的に考察できる能力を身につける。こうした経験を通して、自らの力で研究発表ができ、また科学論文を作成できる能力を身につける。 (28. 西 澤 茂) 選択した研究テーマに関して、研究法やデータ解釈などの指導を行う。また論文のまとめ方、研究発表の仕方を指導する。 (55. 山 本 淳 考) 研究補助</p>	
	脳神経外科専門医 養成講座	<p>(概要) 脳神経外科医には、神経学、脳神経外科学総論、各論、神経科学などの幅広い知識が要求される。こうした知識を獲得するためには、研究会、各種関連学会に参加し、また自らの研究テーマで発表、討論ができなければならない。このような経験を通して、脳神経外科専門医の資格取得を目指す。</p>	
	眼科学特論	<p>(概要) 眼の解剖、生理など眼科学の基礎知識を身につけると共に、中枢神経系や循環器系など全身の他臓器と眼との関連について学ぶ。また、各種眼疾患の発症機序を理解し、それを基に診断、治療に関する知識を身につける。さらに、講義やカンファレンスを通じて、眼科領域で進行中の基礎研究、臨床研究に触れ、研究に対する心構えや研究計画の建て方、研究の進め方などの知識習得を目的とする。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	眼科学演習	(概要) 大学院生が自ら、抄読会で眼科に関する英語論文を紹介する。カンファレンスやセミナー、研究会などで、受け持った症例のプレゼンテーションを行い、問題点などについて議論を行う。このように、多彩な機会を通して、身につけた眼科学の基礎知識を実践的に活用し、プレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける。さらに、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	眼科学実習	(概要) 眼科学を学ぶ過程で興味を持った分野などで、指導教員と話し合っ研究テーマを決定する。その後、指導教員と共に具体的な研究の方向性や手技・手法など研究計画を組み立てる。その際、研究倫理について学び、理解する。計画に沿って研究を開始し、得られた結果について指導教員と議論し、必要に応じて計画を修正し、研究を進めて行く。このような過程を通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを育てる。 (オムニバス方式/全90回)  (56. 近 藤 寛 之/45回) 網膜・硝子体疾患の基礎研究、臨床研究の指導を行うと共に、各種眼疾患の原因遺伝子の同定に関する研究の指導を行う。  (75. 岩 崎 常 人/45回) 眼の屈折、調節を中心とした産業眼科学に関する基礎研究、臨床研究の指導を行う。	オムニバス方式
	眼科学論文指導	(概要) 研究テーマについて結果が得られたら、指導教員と共に結果の解釈の仕方、処理の仕方を検討する。この際、統計学的手法や画像データの処理法なども学ぶ。さらに、考察に当たっての関連論文の調べ方や利用法について身につける。このような過程を通じて研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、指導教員の助言の下、論文の構造・構成、記載法、論文引用法さらに論文投稿の方法を修得する。 (56. 近 藤 寛 之) 網膜・硝子体疾患の基礎研究、臨床研究の指導を行うと共に、各種眼疾患の原因遺伝子の同定に関する研究の指導を行う。 (75. 岩 崎 常 人) 研究補助	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	眼科専門医養成講座	(概要) 眼科専門医には、高度かつ幅広い専門知識と技量が求められる。すなわち、眼に関する解剖学的、生理学的知識と共に全身の臓器との関係を理解していなければならない。さらに、眼疾患の診断・治療に関する知識、点眼や全身投与薬に関する知識、眼科手術についての知識と技量の修得が必要である。これらを講座の講義、カンファレンス、セミナーなどで修得すると共に、外来、病棟、手術場の診療現場で実際に経験し、眼科専門医の資格取得を目指す。	
	耳鼻咽喉科学特論	(概要) 耳科学、鼻科学、口腔・咽喉頭科学、頭頸部外科学などの分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を習得させると同時に実践応用するための経験を積ませる。複雑な構造と機能を有する耳鼻咽喉・頭頸部領域の基本を学ばせ、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	耳鼻咽喉科学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などさまざまな機会を通して耳鼻咽喉・頭頸部外科全般にわたる幅広い基礎知識と実践能力を習得するとともに、大学院生自らが発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば関連する最新の英文原著論文を読んで抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて自ら研究課題を見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	耳鼻咽喉科学実習	(概要) 研究課題の概要が決まった後、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技、手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果についてその都度議論する。研究結果の討論を通じて科学的、論理的なものの考え方、リサーチマインドを育成する。学会発表においては発表のまとめ方を含め、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (29. 鈴木 秀 明/45回) 耳科疾患、鼻科疾患の症例研究を行い、採取した組織を用いた基礎実験を中心に研究指導を行う。  (76. 永 谷 群 司/45回) 口腔・咽喉頭疾患、頭頸部癌の症例研究を行い、採取した組織を用いた基礎実験を中心に研究指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	耳鼻咽喉科学 論文指導	(概要) 研究課題について結果が得られたら、指導教員の下、統計学的手法も用いて実験結果について討論し問題点を明らかにする。この過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては実際に論文を書きながら、指導教員との議論、修正の課程を繰り返し、これを通して論文の構造、構成、記述法さらに論文投稿の方法、倫理を系統的かつ実践的に修習する。 (29. 鈴木 秀 明) 耳科疾患、鼻科疾患の症例研究を行い、採取した組織を用いた基礎実験を中心に研究指導を行う。 (76. 永 谷 群 司) 研究補助	
	耳鼻咽喉科専門医 養成講座	(概要) 耳鼻咽喉科専門医には高度で幅広い専門知識と技術が求められる。すなわち耳科、鼻科、口腔・咽頭科、頭頸部外科の各分野にわたる疾患の病態、診断、治療を十分に理解し、実践できる能力を修得しなければならない。これを講義、セミナー、現場での診療を通して学び、耳鼻咽喉科専門医の資格取得を目指す。	
	麻酔科学特論	(概要) 麻酔管理、集中治療とクリティカル・ケアおよびペインクリニックの麻酔科学が関係する分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。生理学、薬理学、解剖学などの基礎知識を基盤として全身管理の基本を学び、重症患者管理に発展応用する能力の習得を目指すのが目標である。	
	麻酔科学演習	(概要) 麻酔科学全般にわたる幅広い基礎知識を抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学術集会などの機会を通して、実践的に習得する。また、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。これらを通じて、研究テーマを深く追求していく能力を習得するとともに、自ら新しい研究テーマを見出す能力を獲得することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	麻酔科学実習	(概要) 研究テーマの概要を指導教員とともに決定する。指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。また、学会発表等においては、高度なプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。	
	麻酔科学論文指導	(概要) 研究テーマについて結果が得られた後、指導教員のもと実験結果について討論し、問題点、今後の研究方向を明らかにする。研究テーマについて結果をまとめ論文執筆を行う。論文執筆においては、指導教員の執筆指導のもと統計学的手法、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。自ら論文作成、論文投稿、論文受理まで行える能力を身につけることを目標とする。	
	麻酔科専門医養成講座	(概要) 麻酔科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、生理学、薬理学、解剖学などの基礎知識を基盤として、呼吸、循環、神経内分泌機能、感染制御といった侵襲に対する生体防御系の反応について理解が必要となる。これらを臨床応用する技術を講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、麻酔科専門医の資格取得を目標とする。	
	緩和ケアの基本概念と実践	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。がん患者の身体症状および精神症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛を含めた多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説する。がんにおける不安、うつ症状の理解を深めるとともに、疾患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	産科婦人科学特論	(概要) 周産期・新生児学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学の3分野の基本的事項から治療にわたって、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。産婦人科学は人の発生から老年医学までの女性を対象とした幅広い学問であり女性医学としての基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	産科婦人科学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産婦人科全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、産婦人科に関連するカンファレンスで臨床的に問題のあった症例を発表するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	
	産科婦人科学実習	(概要) 産婦人科の研究テーマは主に産科と婦人科に分けられる。希望により研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方を理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、プレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)  (31. 蜂須賀 徹/30回) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。  (58. 松浦 祐介/30回) 婦人科悪性腫瘍を中心に、基礎実験を行う。また臨床例に関する臨床病学的研究に対して指導を行う。  (74. 川越 俊典/30回) 産科を中心に、基礎実験及び臨床例でのハイリスク妊娠の管理、分娩進行に関するデータ統計解析に対して研究指導を行う。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	産科婦人科学 論文指導	(概要) 産婦人科の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (31. 蜂須賀 徹) 選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (58. 松浦 祐介) 研究補助	
	臨床腫瘍診断学	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。炎症マーカーと腫瘍マーカー検査はがんの診断および炎症等との鑑別診断、治療効果の判定、再発の診断になくてはならないものである。超音波検査も含めて、がん診療に必須なこれらの診断法を解説する。	
	小児科学特論	(概要) 小児感染症学、小児免疫学、小児アレルギー学、小児神経学、小児内分泌代謝学、小児血液学、小児腫瘍学、小児腎臓病学、小児消化器病学、小児循環器病学、新生児学などの小児科学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、小児科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。	
	小児科学演習	(概要) 抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、小児科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、小児科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門領域科目	小児科学実習	<p>(概要) 自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 (オムニバス方式/全90回)</p> <p>(32. 楠原浩一/45回) 小児感染免疫に関する選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。</p> <p>(59. 下野昌幸/45回) 誘発電位から判る高次脳機能の情報処理過程の実践的指導を行う。</p>	オムニバス方式
	小児科学論文指導	<p>(概要) 自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 (32. 楠原浩一) 小児感染免疫に関する選択したテーマに関して、研究手法や研究倫理などの指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な指導を行う。 (59. 下野昌幸) 研究補助</p>	
	小児科専門医養成講座	<p>(概要) 小児科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、小児感染症学、小児免疫学、小児アレルギー学、小児神経学、小児内分泌代謝学、小児血液学、小児腫瘍学、小児腎臓病学、小児消化器病学、小児循環器病学、新生児学など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するとともに、診療現場で実践的に習熟し、小児科専門医の資格取得を目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院医学研究科医学専攻)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 領 域 科 目	がん治療の基本原則 Ⅱ	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。抗がん剤治療および分子標的療法の適応・目標・有用性、造血幹細胞移植、化学療法における支持療法、毒性の評価とグレード分類の講義を行い、実践に必要な基本知識を習得させる。	
	各種がんの治療	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。臓器別にそれぞれのがん（腫瘍）の組織学的分類、病期分類、診断法についてまず概説する。その理解のもとに、外科手術、化学療法、放射線療法、およびそれらを組み合わせた集学的治療について、適応、目標、有用性を解説する。	
	がんの生命倫理、法的 経済的問題、心理 社会的側面	(概要) 本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。インフォームド・コンセント、医学研究に関する倫理、QOLの評価法、がん研究における利害相反の定義について解説する。	